

市内遺跡発掘調査

XI

2 0 1 8

埼玉県富士見市教育委員会

富士見市文化財報告 第70集

市内遺跡発掘調査

XI

2 0 1 8

埼玉県富士見市教育委員会



あ い さ つ

富士見市教育委員会

教育長 山 口 武 士

埼玉県富士見市は、都心から約30km、武蔵野台地の北東縁に位置し、市域の西部には武蔵野台地、東部には荒川低地が広がっています。台地から低地に向かって流れる河川と台地際から湧き出す湧き水により、複雑な地形が造り出される一方で、緑豊かな自然環境が広がっています。この恵まれた自然環境の中、武蔵野台地の縁辺部を中心に、先史時代から続く人々の暮らした痕跡がよく残されており、市内では旧石器時代から近世に至るまでの埋蔵文化財包蔵地（遺跡）が59か所確認されています。この中には、縄文時代前期の環状集落「国指定史跡 水子貝塚」や、縄文時代早期末から前期にかけての遺構・遺物が顕著な「打越遺跡」、弥生時代後期から古墳時代初頭にかけての大規模環状集落「南通遺跡」、中世武士の館「県指定旧跡 難波田氏館跡」など著名な遺跡が存在します。

富士見市教育委員会では、これらの埋蔵文化財包蔵地の保存や、発掘調査で発見された郷土の貴重な歴史資料の活用を図るため、「国指定史跡 水子貝塚」、「県指定旧跡 難波田氏館跡」はそれぞれ「水子貝塚公園・水子貝塚資料館」、「難波田城公園・難波田城資料館」として整備を行い、歴史公園としてまた学習の場として、市民のみならず多くの方々にご活用いただいております。

その一方では、まだ市内に残されている埋蔵文化財を保護すべく、市内遺跡発掘調査事業として、埋蔵文化財包蔵地内での宅地造成・住宅建設等の開発に先立ち、事前に試掘調査・発掘調査を実施し、埋蔵文化財の記録保存等の措置を行ってまいりました。市内の埋蔵文化財包蔵地は、そのほとんどが市街化区域である台地上に分布しており、開発行為の受けやすい状況下にあります。平成29年度の市内遺跡発掘調査事業では、試掘調査及び発掘調査等が50件以上を数え、郷土の歴史を知る上で貴重な遺構・遺物が検出され、成果をおさめることができました。

ここに本年度の事業成果の一部を報告書として刊行するにあたり、ご指導ご協力を賜りました文化庁、埼玉県教育局生涯学習文化財課並びに地元関係各位に厚く御礼申し上げます。本書が埋蔵文化財に対する理解と知識を深めると共に、富士見市の歴史を学ぼううえで参考になれば幸いに存じます。



例 言

1. 本書は、平成29年度に実施した埼玉県富士見市内に所在する遺跡群の発掘調査報告書である。

発掘調査は富士見市教育委員会が主体となり、平成29年4月1日より平成30年3月31日まで実施した。

調査にかかる経費の一部については国庫及び県費補助金の交付を受けている。

2. 調査組織は以下のとおりである。

調 査 主 体 者 富士見市教育委員会

教 育 長 山口武士

教 育 部 長 木村久志

生涯学習課長 鳥海謙一

生涯学習副課長 和田晋治

文化財保護担当 和田晋治・堀 善之・佐藤一也

調 査 担 当 者 堀 善之・佐藤一也

3. 本書の編集は富士見市教育委員会が行い、堀が担当した。

第1～3章 堀

4. 本書の遺構遺物挿図の指示は以下のとおりである。

(1) 図版の縮尺は主に次のとおりである。

遺構配置図	1/300
住居跡・土坑・溝跡・井戸跡	1/60
竪穴状遺構・方形周溝墓	1/60
炉・カマド・火皿・火葬墓	1/30
炉穴	1/30
土器実測図	1/4
土器拓影図・石器実測図	1/3, 2/3

(2) 遺構実測図の水糸高は海拔高を示す。

(3) 柱穴内の数字は床面及び確認面からの深度を示す。

(4) 住居跡名・方形周溝墓名・土坑名・炉穴名・

溝跡名・火葬墓名・井戸跡・竪穴状遺構名は、時代ごとに、遺跡内の通し番号になっている。

(5) 遺構名の略記号は以下の内容を示す。

JD＝縄文時代の土坑、H＝古墳時代以降の住居跡、HD＝古墳時代以降の土坑、M＝溝跡

5. 本報告にかかる出土品及び記録図面・写真等は一括して富士見市文化財整理室に保管してある。

6. 発掘調査及び整理を通じて下記の諸機関・諸氏に御指導・御協力を賜った。(敬称略)

越前谷理・太久保淳・岡崎裕子・尾形則敏

岡野賢人・加藤秀之・鎌田 翔・隈本健介

高崎直成・坪田幹男・中村 愛・鍋島直久

早坂廣人・柳井章宏・柳沢健司

7. 調査参加者

(調査員)

櫻井英史

(調査協力員)

飯田久子・岩瀬直美・上田 寛・臼井 孝

大川早苗・小口 広・小田陽子・神谷道子

向後洋史・白石尚美・末国敏郎・鈴木美恵子

中川和弘・名久井よし江・長谷川雅之

深谷和江・森戸和子・盛政清美・三嘴 勉

山口好文・吉田信江

(整理協力員)

和泉千珠子・伊藤幸子・内田和枝・小川千鶴子

今野孝之・萩元智子・細見美枝・結城路子

目 次

あいさつ
例 言
目 次
図表目次
写真図版目次

第 1 章	平成29年度の調査成果の概要	1
第 1 節	遺跡の立地と環境	1
第 2 節	発掘調査に至る経過	3
第 3 節	調査成果の概要	5
第 2 章	東台遺跡第35地点	9
第 1 節	遺跡の概要	9
第 2 節	縄文時代の遺構と遺物	10
第 3 節	平安時代の遺構と遺物	11
第 4 節	平安時代以降の遺構と遺物	32
第 3 章	宿（多門氏館跡）遺跡第 7 地点	35
第 1 節	遺跡の概要	35
第 2 節	平安時代の遺構と遺物	36
第 3 節	平安時代以降の遺構と遺物	38

写真図版
報告書抄録

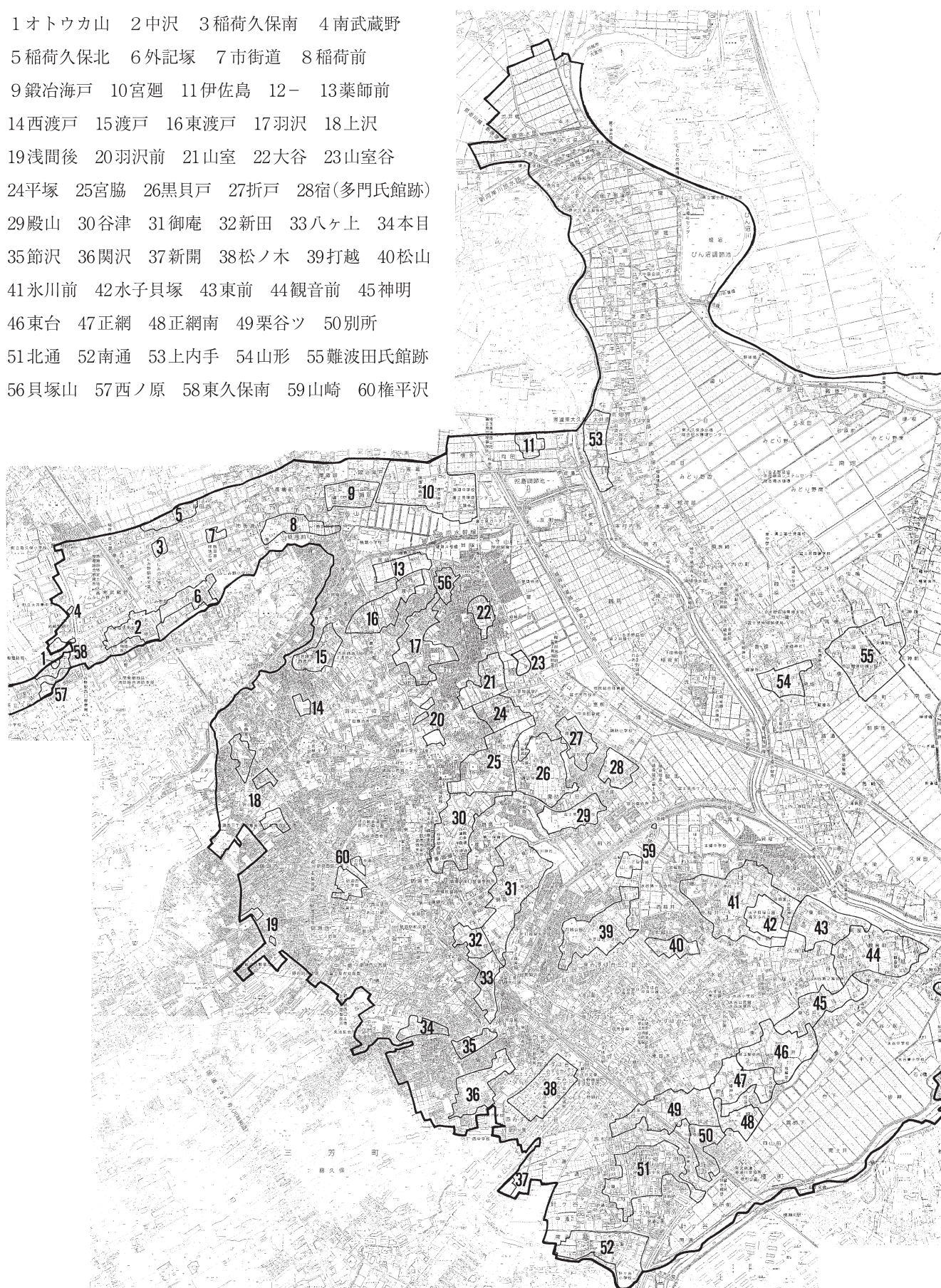
図 表 目 次

第1図	富士見市内遺跡分布図		第18図	第62号・第63号住居跡（62・63H）1	25
第2図	観音前跡第48地点	5	第19図	第62号・第63号住居跡（62・63H）2	26
第3図	宮脇遺跡第52地点	6	第20図	第62号・第63号住居跡（62・63H）3	27
第4図	東台遺跡第52地点	7	第21図	第75号住居跡（75H）	28
第5図	別所遺跡第25・26地点	7	第22図	東台遺跡第35地点出土遺物1	29
第6図	北通遺跡第81地点	8	第23図	東台遺跡第35地点出土遺物2	30
第7図	東台遺跡第35地点	9	第24図	東台遺跡第35地点出土遺物3	31
第8図	東台遺跡第35地点遺構配置図	10	第25図	第1号溝跡（1M）	33
第9図	第15～19号土坑（15～19JD）	12	第26図	第3号竪穴状遺構	34
第10図	第56号・第57号住居跡（56・57H）1	13	第27図	宿遺跡第7地点	35
第11図	第56号・第57号住居跡（56・57H）2	14	第28図	宿遺跡第7地点遺構配置図	36
第12図	第56号・第57号住居跡（56・57H）3	15	第29図	第1号住居跡（1H）	37
第13図	第58号住居跡（58H）	18	第30図	第1号住居跡出土遺物	38
第14図	第59号・第60号住居跡（59・60H）1	19			
第15図	第59号・第60号住居跡（59・60H）2	20	第1表	平成29年度調査地点一覧1	3
第16図	第59号・第60号住居跡（59・60H）3	21	第2表	平成29年度調査地点一覧2	4
第17図	第61号住居跡（61H）	24	第3表	平成29年度調査地点一覧3	5

写真図版目次

写真図版1	東台遺跡第35地点1 第56号住居跡および遺物出土状況	写真図版8	東台遺跡第35地点8 第56号住居跡出土遺物
写真図版2	東台遺跡第35地点2 第57号住居跡および遺物出土状況 第58号住居跡	写真図版9	東台遺跡第35地点9 第57・59号住居跡出土遺物
写真図版3	東台遺跡第35地点3 第58号住居跡および遺物出土状況 第59・60号住居跡	写真図版10	東台遺跡第35地点10 第60号住居跡出土遺物
写真図版4	東台遺跡第35地点4 第60号住居跡遺物出土状況 第61号住居跡 第62・63号住居跡	写真図版11	東台遺跡第35地点11 第62号住居跡出土遺物
写真図版5	東台遺跡第35地点5 第62・63号住居跡遺物出土状況	写真図版12	東台遺跡第35地点12 第63・75号住居跡出土遺物
写真図版6	東台遺跡第35地点6 第75号住居跡および遺物出土状況 第1号溝跡、第3号竪穴状遺構	写真図版13	宿遺跡第7地点1 調査前風景、調査風景 第1号住居跡および遺物出土状況
写真図版7	東台遺跡第35地点7 全景写真	写真図版14	宿遺跡第7地点2 第1号住居跡出土遺物

1 オトウカ山 2 中沢 3 稲荷久保南 4 南武蔵野
 5 稲荷久保北 6 外記塚 7 市街道 8 稲荷前
 9 鍛冶海戸 10 宮廻 11 伊佐島 12- 13 薬師前
 14 西渡戸 15 渡戸 16 東渡戸 17 羽沢 18 上沢
 19 浅間後 20 羽沢前 21 山室 22 大谷 23 山室谷
 24 平塚 25 宮脇 26 黒貝戸 27 折戸 28 宿(多門氏館跡)
 29 殿山 30 谷津 31 御庵 32 新田 33 ハヶ上 34 本目
 35 節沢 36 関沢 37 新開 38 松ノ木 39 打越 40 松山
 41 氷川前 42 水子貝塚 43 東前 44 観音前 45 神明
 46 東台 47 正網 48 正網南 49 栗谷ツ 50 別所
 51 北通 52 南通 53 上内手 54 山形 55 難波田氏館跡
 56 貝塚山 57 西ノ原 58 東久保南 59 山崎 60 権平沢



第1図 富士見市内遺跡分布図(1/30000)

第 1 章 平成29年度の調査成果の概要

第 1 節 遺跡の立地と環境

埼玉県富士見市は、都心から30km圏内の県域南部に位置している。昭和40年代前半まで武蔵野の面影の残る近郊農村であったが、その後は東武東上線沿線のベッドタウンとして大きく変貌を遂げてきた。人口は、昭和30年代に約1万人であったが、現在は約11万人を数える。また、平成5年の東武東上線ふじみ野駅開業や周辺の区画整理事業の進展に伴い、ふじみ野駅周辺を中心に開発が進み、人口が増加する要因となっている。

また、富士見市は、東に荒川を挟んで対岸にさいたま市（旧浦和市・旧大宮市・旧与野市）、南に柳瀬川を挟んで対岸に志木市、北にふじみ野市（旧上福岡市・旧大井町）、西に三芳町とそれぞれ接している。

市域の中央部には新河岸川が南北に貫流し、荒川と新河岸川により形成された標高6m前後の「荒川低地」と呼ばれる沖積地が市域東半部に広がる。市域西半部は武蔵野台地の北東縁にあたり、標高20m前後を測る。また、台地縁辺部には、新河岸川に注ぐ小河川の浸食や湧水により、多くの支谷が形成され複雑な地形を呈している。

市内で確認されている埋蔵文化財包蔵地（遺跡）は59か所を数え、その多くは台地縁辺部に集中し、旧石器時代から近世にわたる遺跡が確認されている。一方荒川低地では、新河岸川沿いに形成された自然堤防上を中心に、弥生時代・古墳時代・中近世の遺跡が確認されているが、その数は少ない。

市内の遺跡を時代別に概観すると、旧石器時代の遺跡は、中沢遺跡、外記塚遺跡、宮廻遺跡、西渡戸遺跡、羽沢遺跡、上沢遺跡、山室遺跡、宿遺跡（多門氏館跡）、谷津遺跡、八ヶ上遺跡、松ノ木遺跡、打越遺跡、氷川前遺跡、栗谷ツ遺跡、北通遺跡、貝塚山遺跡、西ノ原遺跡、権平沢遺跡で礫群と遺物が出土している。

谷津遺跡では、X層中からナイフ形石器5点と石刀3点がデポのような状況で確認され、中沢遺跡でもX層中から使用痕のある礫器が出土している。

栗谷ツ遺跡では、VI層中からナイフ形石器群が出土し、中沢遺跡、外記塚遺跡、山室遺跡、八ヶ上遺跡、

松ノ木遺跡、貝塚山遺跡等のⅢ層～Ⅴ層からも出土している。また、細石刃群は打越遺跡で僅かに出土している。

縄文時代の遺跡は、宮廻遺跡、羽沢遺跡、打越遺跡、別所遺跡、南通遺跡、貝塚山遺跡で草創期の有舌尖頭器等の石器が断片的に採取され、また、八ヶ上遺跡では隆起線文土器や爪形文土器と豊富な石器が出土している。

早期では、栗谷ツ遺跡で前葉の夏島式期、稲荷台式期の竪穴住居跡が検出されている。早期末から前期にかけては縄文海進の影響により、市域東部の荒川低地部に海水が進入して古入間湾が形成され、その湾岸にあたる武蔵野台地縁辺部を中心に多くの貝塚を伴う集落が形成された。

早期後半では、打越遺跡（打越式期他竪穴住居跡58軒、炉穴94基）を中心として、宮廻遺跡（条痕文期竪穴住居跡8軒、炉穴46基）、貝塚山遺跡（条痕文期竪穴住居跡1軒、炉穴153基、竪穴状遺構2基）、山室遺跡（鵜ヶ島台式期竪穴住居跡2軒、炉穴3基）、谷津遺跡（条痕文期竪穴住居跡2軒、炉穴15基）、氷川前遺跡（条痕文期竪穴住居跡1軒、打越式期竪穴住居跡1軒、炉穴55基）、北通遺跡（条痕文期竪穴住居跡2軒、炉穴20基）、南通遺跡（条痕文期竪穴住居跡1軒、炉穴10基）の各遺跡でも竪穴住居跡が検出されており、下沼部式（氷川前遺跡）～打越式古段階併行（宮廻遺跡）～打越式中段階（打越遺跡）～打越式新段階（氷川前遺跡）～神之木台式・下吉井式（打越遺跡）のように連続する土器形式が把握され、それに伴う集落が営まれている。

その他にも、西渡戸遺跡、渡戸遺跡、羽沢遺跡、平塚遺跡、折戸遺跡、殿山遺跡、宿遺跡、御庵遺跡、八ヶ上遺跡、節沢遺跡、東前遺跡、観音前遺跡、東台遺跡、栗谷ツ遺跡、別所遺跡の各遺跡で炉穴や縄文時代早期の遺物が検出されている。

前期になると、集落の規模も大きくなり、貝塚を伴う集落が形成されるようになる。関山式期には打越遺跡を中心とし、中沢遺跡、殿山遺跡、御庵遺跡、節沢遺跡、松山遺跡、氷川前遺跡、正網遺跡、北通遺跡、南

通遺跡の各遺跡、黒浜式期には国指定史跡でもある水子貝塚を中心とし、宮廻遺跡、宮脇遺跡、黒貝戸遺跡、殿山遺跡、八ヶ上遺跡、栗谷ツ遺跡、別所遺跡の各遺跡で、竪穴住居跡等の遺構及び遺物が検出されている。

次の諸磯式期には、宮廻遺跡、水子貝塚、山崎遺跡等で竪穴住居跡が検出されているものの、貝塚は伴わないものとなっている。

中期前半の遺跡は僅少であるが、勝坂式期後葉から加曽利E式期、後期初頭の称名寺式期にかけては、中沢遺跡、外記塚遺跡、稲荷前遺跡、貝塚山遺跡、羽沢遺跡、宮脇遺跡、谷津遺跡、御庵遺跡、新田遺跡、八ヶ上遺跡、節沢遺跡、関沢遺跡、松ノ木遺跡、氷川前遺跡、栗谷ツ遺跡、北通遺跡の各遺跡で竪穴住居跡・土坑等の遺構が検出されており、特に中沢遺跡・羽沢遺跡・松ノ木遺跡は環状集落の様相を呈している。

後期では初頭以降に本目遺跡・打越遺跡・正網遺跡で僅かに遺構と遺物が検出されるに過ぎず、晩期になると正網遺跡で僅かに遺物が確認されるのみである。

弥生時代から古墳時代初頭にかけては、市域南半部から柳瀬川流域に集落が集中し、南通遺跡で中期の宮ノ台式期竪穴住居跡が検出されている。

弥生時代後期から古墳時代初頭にかけては、柳瀬川流域の観音前遺跡、東台遺跡、栗谷ツ遺跡、別所遺跡、北通遺跡、南通遺跡の各遺跡、市域南半部の本目遺跡、打越遺跡、松山遺跡、氷川前遺跡の各遺跡で竪穴住居跡が検出されている。

また、新河岸川流域の自然堤防上に位置する上内手遺跡、山形遺跡、難波田氏館跡等でも竪穴住居跡が確認され、低地についても集落が形成されたことが明らかとなっている。

南通遺跡では、環濠と竪穴住居跡310軒が検出され、観音前遺跡、北通遺跡で環濠、氷川前遺跡、東台遺跡、北通遺跡、山形遺跡で方形周溝墓が検出されている。また、北通遺跡で検出された方形周溝墓の主体部からは、鉄剣やガラス玉が出土している。

古墳時代では、後期に宮脇遺跡、黒貝戸遺跡、打越遺跡、氷川前遺跡、観音前遺跡、別所遺跡で竪穴住居跡が検出されている。古墳はかつて貝塚山遺跡に存在していたが、現在は削平されている。また、氷川前遺跡、観音前遺跡では円墳の周溝と思われる溝跡がそれ

ぞれ検出されている。

奈良時代では、中沢遺跡、黒貝戸遺跡、殿山遺跡、谷津遺跡、北通遺跡、南通遺跡、上内手遺跡、権平沢遺跡等で竪穴住居跡が検出されている。

平安時代では、市域のほぼ全域において遺構と遺物が確認されている。中沢遺跡、宮廻遺跡、宮脇遺跡、黒貝戸遺跡、殿山遺跡、谷津遺跡、御庵遺跡、打越遺跡、松山遺跡、氷川前遺跡、東前遺跡、観音前遺跡、東台遺跡、正網遺跡、栗谷ツ遺跡、別所遺跡、北通遺跡、南通遺跡等で竪穴住居跡が検出されている。

また、氷川前遺跡、正網遺跡で掘立柱建物跡群、栗谷ツ遺跡で須恵器窯跡1基、本目遺跡で土器焼成土坑、宮脇遺跡、氷川前遺跡、東台遺跡で工房跡が検出されている。特に、宮脇遺跡の鑄造工房跡からは、多量の鉄滓や銅滓とともに、銅製仏具の鑄造に使用された鑄型が出土している。

他に、観音前遺跡、東台遺跡で瓦塔片が出土している。

中世では、城館跡の難波田氏館跡（県指定旧跡）、殿山遺跡、宿遺跡（多門氏館跡）の他、鍛冶海戸遺跡、宮廻遺跡、殿山遺跡、打越遺跡、氷川前遺跡、東台遺跡、正網遺跡、別所遺跡、北通遺跡、山形遺跡の各遺跡で遺構と遺物が検出されている。

難波田氏館跡で、郭跡、堀跡、建物跡、橋脚跡が、殿山遺跡で堀跡、地下式坑、段切り遺構がそれぞれ検出されている。

また、宿遺跡（多門氏館跡）で、堀跡、土塁跡、建物跡、地下式坑、井戸跡、溝跡、墓坑、粘土貼土坑等が検出され、鍛冶海戸遺跡では堀跡が検出されている。

他にも打越遺跡では、建物跡、地下式坑、溝跡等、東前遺跡で井戸跡、観音前遺跡で火葬墓が検出され、北通遺跡で火葬墓、段切り遺構、多数の板碑を伴う墓坑、別所遺跡で地下式坑、井戸跡がそれぞれ検出されている。

観音前遺跡、東台遺跡、正網遺跡、別所遺跡、北通遺跡については、柳瀬川流域の崖線上に連なるようにして位置しており、同じく崖線付近を通じていたとされる鎌倉道（羽根倉道）との関連が想定される。

近世では、富士塚と推定されるオトウカ山遺跡などがある。

第2節 発掘調査に至る経過

市内の遺跡は、多くが市域西半部の武蔵野台地縁辺部に集中し、急激な市街化に伴う開発が盛んに行われてきたところである。

開発は主に宅地造成・住宅建設等の面積1,000㎡以下の小規模な開発が大半を占めるが、埋蔵文化財に対しては多大な影響を与えてきた。

このような小規模な開発による埋蔵文化財の蚕食的消滅を防ぐためには、小規模な開発に対してもきめ細やかな対応を行い、最低限の記録保存の措置を講じる必要がある。

そのため、富士見市教育委員会では、埋蔵文化財包

蔵地内での開発行為に先立ち、埋蔵文化財の試掘調査・発掘調査を行う体制を整えるとともに、試掘調査・発掘調査を実施、記録保存等の措置を講じてきた。

財政的には、昭和52年度から国庫・県費補助金の交付を受け、昭和61年度から発掘調査費用の一部を市負担として実施してきた。

特に市内の水子地域・諏訪地域では平成22年11月に市街化区域に編入された事により、開発行為が増加している。そのため、近年是水子地区に所在する東前遺跡、観音前遺跡、氷川前遺跡、神明遺跡、東台遺跡、栗谷ツ遺跡、別所遺跡の各遺跡で、試掘調査・発掘調査の件数が増加している状況である。

No	遺跡・地点	所在地	面積 (㎡)	調査原因	調査期間 上段：試掘調査 下段：発掘調査	特記事項	北緯 東経
1	正網南遺跡 第10地点	大字水子字正網 5037-1、5038	3,320	宅地造成	3月28日～3月30日 4月10日～4月13日	段切遺構 【発掘調査】	35°50′ 07″ 139°33′ 35″
2	東渡戸遺跡 第26地点	渡戸2丁目861-9、 861-13	253.31	分譲住宅	4月18日～4月19日	なし 【慎重工事】	35°51′ 19″ 139°32′ 01″
3	東台遺跡 第51地点	大字水子4449-7、 4450-2	65	道路拡幅	4月20日	なし 【慎重工事】	35°50′ 24″ 139°33′ 42″
4	東台遺跡第50 地点・神明遺 跡第26地点	大字水子字石井 4424-3・9、4426-5・10 ・11、4428-1・2	3,150.48	宅地造成	5月15日～5月16日、8月21日	なし 【慎重工事】	35°50′ 23″ 139°33′ 49″
5	観音前遺跡 第48地点	大字水子字城ノ下 3022-4、3023、3054-2	142	個人住宅	5月18日～5月19日 5月22日	奈良時代住居跡1軒 【発掘調査】	35°50′ 37″ 139°34′ 13″
6	谷津遺跡 第46地点	鶴馬1丁目 2258-2の一部	227.97	個人住宅	5月29日～5月30日	なし 【慎重工事】	35°51′ 02″ 139°32′ 31″
7	氷川前遺跡 第73地点	大字水子字本郷 628-2、629-1	261.24	個人住宅	5月30日～5月31日	なし 【慎重工事】	35°50′ 49″ 139°33′ 25″
8	神明遺跡 第28地点	大字水子字東石井 2583、2607-1・2、2608- 5・6・7	1,934.74	宅地造成	6月1日	なし 【慎重工事】	35°50′ 28″ 139°33′ 53″
9	栗谷ツ遺跡 第52地点	大字水子字北別所 5021-1の一部	342.72	個人住宅	6月6日	なし 【慎重工事】	35°50′ 07″ 139°33′ 29″
10	本日遺跡 第20地点	関沢2丁目20-35	100.07	個人住宅	6月12日～6月14日	なし 【慎重工事】	35°50′ 25″ 139°32′ 28″
11	山形遺跡 第15地点	大字下南畑111-8・9、 112-5、113-5、135-8	125.39	道路拡幅	6月19日	なし 【慎重工事】	35°51′ 26″ 139°33′ 48″
12	宮脇遺跡 第52地点	羽沢3丁目 28-1、1576-1・10	1,451	宅地造成 分譲住宅	6月19日～6月22日	縄文時代集石1基、 平安時代住居跡6軒、 掘立柱建物跡1棟、 土坑 【発掘調査】	35°51′ 08″ 139°32′ 43″

第1表 平成29年度調査地点一覧1（平成30年1月31日現在）

No.	遺跡・地点	所在地	面積 (㎡)	調査原因	調査期間 上段：試掘調査 下段：発掘調査	特記事項	北緯 東経
13	神明遺跡 第29地点	大字水子字東石井 2640-1	1,066	宅地造成 分譲住宅	6月26日～6月27日	炉穴1基 【発掘調査】	35°50' 30" 139°33' 56"
14	南通遺跡 第25地点	針ヶ谷2丁目 24-1・2・13・12の一部	1,631.59	宅地造成 分譲住宅	7月3日～7月4日	なし 【慎重工事】	35°49' 48" 139°33' 00"
15	東台遺跡 第52地点	大字水子字東台 4568-1	142.31	個人住宅	7月10日～7月11日	平安時代住居跡5軒 【現状保存】	35°50' 17" 139°33' 36"
16	東渡戸遺跡 第27地点	渡戸2丁目874-5	132	個人住宅	7月18日	なし 【慎重工事】	35°51' 36" 139°32' 10"
17	栗谷ツ遺跡 第53地点	針ヶ谷1丁目2-20・21の 各一部、2-20	276	個人住宅	7月20日～7月21日	なし 【慎重工事】	35°50' 08" 139°33' 08"
18	東渡戸遺跡 第28地点	渡戸1丁目810-3・4、 811-1、812-4・5・7・10	2,603.16	店舗 駐車場	7月24日	なし 【慎重工事】	35°51' 40" 139°32' 15"
19	別所遺跡 第25地点	大字水子字別所 6328-2、6329-1・2	244.39	個人住宅	8月4日 8月17日～8月18日	弥生時代住居跡1軒 【発掘調査】	35°50' 03" 139°33' 27"
20	権平沢遺跡 第3地点	鶴瀬西2丁目 2529-3・5	999.99	その他 建物	8月9日～8月10日	なし 【慎重工事】	35°50' 48" 139°32' 10"
21	羽沢遺跡 第79地点	渡戸1丁目768-1・6、 774-53・55・266	252.68	分譲住宅	9月7日	なし 【慎重工事】	35°51' 40" 139°32' 27"
22	宮廻遺跡 第44地点	大字勝瀬字宮廻 863-3	165.31	個人住宅	9月25日	なし 【慎重工事】	35°52' 04" 139°32' 18"
23	東前遺跡 第20地点	大字水子1777-1	48.03	道路拡張	9月25日	なし 【慎重工事】	35°50' 45" 139°33' 47"
24	黒貝戸遺跡 第38地点	諏訪2丁目1612-6	165	個人住宅	9月28日 10月2日～10月3日	平安時代土坑1基 【発掘調査】	35°51' 07" 139°32' 55"
25	神明遺跡 第31地点	大字水子字久保田 新田1930-2	152.13	個人住宅	10月10日	なし 【慎重工事】	35°50' 30" 139°33' 51"
26	氷川前遺跡 第74地点	大字水子字東北側 1535-1・7・9、1536-2	685	分譲住宅	10月11日	なし 【慎重工事】	35°50' 52" 139°33' 39"
27	黒貝戸遺跡 第39地点	諏訪1丁目9-22	436	個人住宅	10月17日 10月18日	縄文時代土坑1基 【発掘調査】	35°51' 12" 139°32' 53"
28	別所遺跡 第26地点	大字水子6327-3・6、 5020、5021-2、6345	2,660.76	分譲住宅	10月18日～10月27日	縄文時代住居跡4軒、 弥生時代住居跡8軒、 平安時代住居跡5軒、 溝跡、土坑 【発掘調査】	35°50' 05" 139°33' 27"
29	正網遺跡 第12地点	大字水子字台 4574-3、4612、4613	1,658.52	宅地造成 分譲住宅	10月30日～10月31日	なし 【慎重工事】	35°50' 19" 139°33' 34"
30	東前遺跡 第21地点	大字水子字東前 1814-9	179.63	個人住宅	11月6日	なし 【慎重工事】	35°50' 43" 139°33' 55"
31	北通遺跡 第81地点	針ヶ谷1丁目 33-1・19・48・49	1,033.96	集合住宅	11月6日 11月21日～27日	縄文時代住居跡1軒、 弥生時代住居跡2軒 【発掘調査、現状保存】	35°49' 59" 139°33' 13"
32	本目遺跡 第21地点	関沢2丁目 3370-2、3385-1	447.65	分譲住宅	11月9日	なし 【慎重工事】	35°50' 24" 139°32' 21"

第 2 表 平成29年度調査地点一覧 2（平成30年1月31日現在）

No.	遺跡・地点	所在地	面積 (㎡)	調査原因	調査期間 上段：試掘調査 下段：発掘調査	特記事項	北緯 東経
33	神明遺跡 第30地点	大字水子字東石井 2622、2623-2	496.52	個人住宅	11月13日	なし 【慎重工事】	35°50′ 28″ 139°33′ 55″
34	難波田氏館跡 第54地点	大字下南畑634外	411	その他 建物	11月13日	堀跡 【発掘調査】	35°51′ 31″ 139°34′ 09″
35	谷津遺跡 第47地点	鶴馬1丁目19-11	131.74	集合住宅	11月16日 11月17日	平安時代土坑 【発掘調査】	35°51′ 06″ 139°32′ 35″
36	東前遺跡 第22地点	大字水子字東前 1814-2	165.32	個人住宅	12月6日～12月7日	なし 【慎重工事】	35°50′ 43″ 139°33′ 55″
37	大谷遺跡 第8地点	山室2丁目1209-1、 1230-1の各一部	488.5	個人住宅	12月11日	なし 【慎重工事】	35°51′ 36″ 139°32′ 37″
38	神明遺跡 第32地点	大字水子字東石井 2641-1	316.79	個人住宅	12月18日～12月19日	なし 【慎重工事】	35°50′ 30″ 139°33′ 56″
39	宮脇遺跡 第53地点	羽沢3丁目 1574-2・7・23・34・35	533.73	分譲住宅	平成30年1月9日～1月11日 1月12日	縄文時代集石1基 【発掘調査】	35°51′ 09″ 139°32′ 45″
40	氷川前遺跡 第75地点	大字水子字氷川前 1335-1	216.91	分譲住宅	1月16日	なし 【慎重工事】	35°50′ 43″ 139°33′ 31″
41	宮脇遺跡 第54地点	羽沢3丁目29-3	133	個人住宅	1月24日～1月26日 1月30日～	平安時代住居跡1軒、 掘立柱建物跡【発掘調査】	35°51′ 08″ 139°32′ 43″

第3表 平成29年度調査地点一覧3（平成30年1月31日現在）

第3節 調査成果の概要

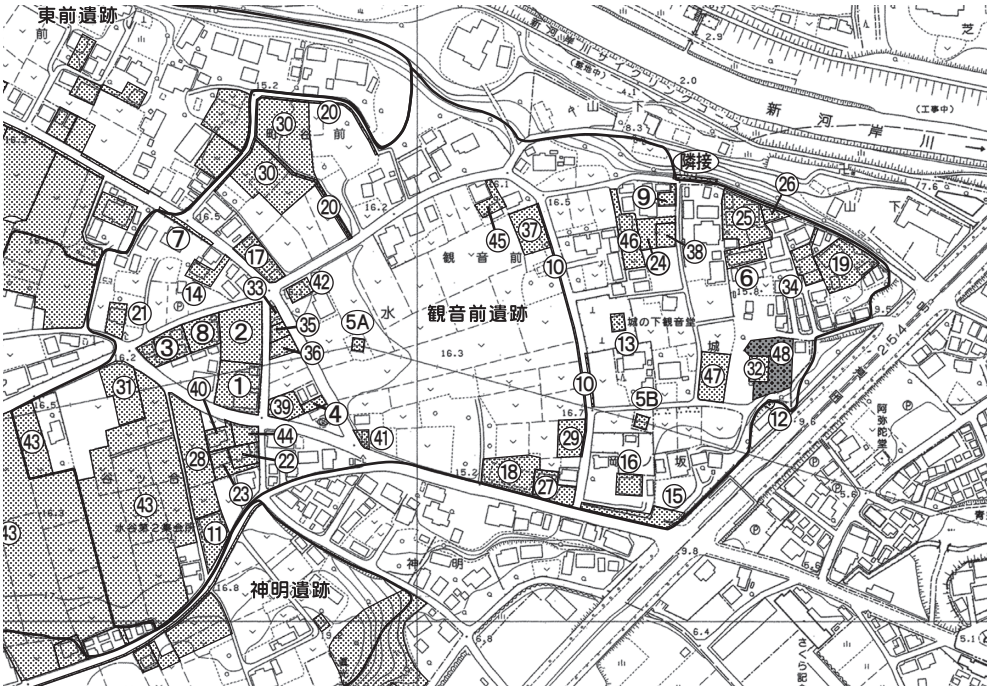
比較的良好な遺構と遺物が検出された遺跡については後章で報告することとし、本節においてはそれ以外の遺跡について調査概要を報告する。

これまでに47地点の調査が実施され、弥生時代後期～古墳時代初頭、古墳時代後期を中心とした大規模な複合遺跡であると想定される。

検出された主な遺構は、報告されたもので縄文時代炉穴1基、弥生時代後期～古墳時代初頭の竪穴住居跡

1. 観音前遺跡第48地点（第2図）

観音前遺跡は市域南部の水子地区に位置し、武蔵野台地縁辺部に立地する。北東は直下に新河岸川と荒川低地、南は柳瀬川と柳瀬川によって開析された支谷を臨み、低地と支谷によって画された支台上に立地する。遺跡の北西側で東前遺跡、南西側で神明遺跡と接している。



第2図 観音前遺跡第48地点（1/5000）

27軒、環濠と思われる溝跡、古墳時代後期竪穴住居跡15軒、平安時代竪穴住居跡9軒などである。また、中世の火葬墓や近世の墓坑なども見つっている。

今回調査した第48地点は、遺跡の東端に位置する台地の崖線部で、周辺の既調査地点からも多くの遺構が確認されている。本地点は個人住宅の建設に伴い平成29年5月18日～5月19日に試掘調査を実施した結果、奈良時代の住居跡1軒が検出された。検出された遺構は工事の掘削による影響を受けると判断し記録を保存するための発掘調査を実施することとなった。なお、報告については次年度以降に行う予定である。

2. 宮脇遺跡第52地点（第3図）

宮脇遺跡は市域中央部の武蔵野台地縁辺部に位置し、北東側は荒川の氾濫により形成された沖積低地を臨んでいる。遺跡の南東側は富士見江川の支流である権平川により浸食・形成された支谷に面している。また、遺跡の東側には湧水による小支谷が形成され複雑な地形を呈している。周辺には同じ鶴瀬支台上で北側に平塚遺跡、南側に旧石器時代・縄文時代早～中期・奈良平安時代～近世の複合遺跡である谷津遺跡、東側には旧石器時代・縄文時代前期・古墳時代後期～近世の複合遺跡である黒貝戸遺跡と隣接している。

宮脇遺跡はこれまでに51地点の調査が実施され、縄文時代前期～中期・古墳時代後期・平安時代を中心とした大規模な複合遺跡であることが判明している。

検出された主な遺構は、報告されたもので縄文時代前期黒浜式期住居跡11軒、中期勝坂式期住居跡2軒、中期加曽利EⅢ式期住居跡1軒、加曽利EⅣ式期住居跡1軒、古墳時代後期鬼高

式期住居跡1軒、平安時代住居跡52軒、掘立柱建物跡、溝跡、柱穴列が確認されている。

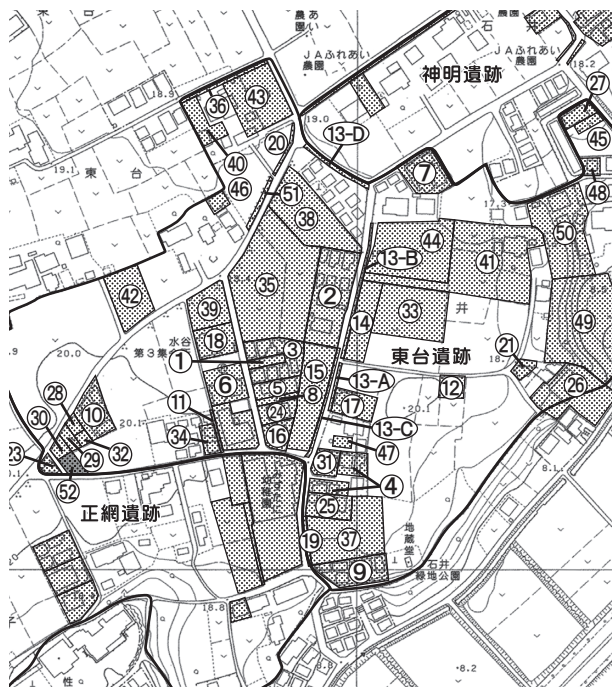
今回調査した第52地点は、遺跡の南東側に位置する台地平坦部であり、これまでの周辺の発掘調査の結果から多くの遺構が分布することが予想された地域である。本地点は宅地造成および分譲住宅の建設に伴い平成29年6月19日～6月22日に試掘調査を実施した結果、縄文時代集石1基、平安時代住居跡6軒、掘立柱建物跡1棟、土坑など多くの遺構が検出された。検出された遺構は、工事の掘削による影響を受けると判断し記録を保存するための発掘調査を実施することとなった。発掘調査は富士見市遺跡調査会により行われた。

3. 東台遺跡第52地点（第4図）

東台遺跡は市域南部の水子地区に位置し、柳瀬川を南東側に臨む武蔵野台地縁辺部に立地する。標高約19～20m。遺跡の北東側に神明遺跡、南西側に正網遺跡と接している。



第3図 宮脇遺跡第52地点（1/5000）



第4図 東台遺跡第52地点 (1/5000)

これまでに51地点の調査が実施され、旧石器時代・弥生時代後期～古墳時代初頭・平安時代・中近世にかけて遺構が多数確認され、大規模な複合遺跡であると想定される。検出された主な遺構・遺物は、旧石器時代では第9地点においてナイフ型石器が、弥生時代後期～古墳時代初頭では方形周溝墓3基・住居跡6軒、平安時代では9世紀前半～10世紀初頭の住居跡81軒の他に掘立柱建物跡・溝跡・土坑等が多数検出されている。

今回調査した第52地点は遺跡の西端部に位置し、個人住宅の建設に伴い試掘調査を行った。平成29年7月10日～7月11日に調査を行った結果、平安時代住居跡5軒、土坑が確認された。しかし、工事により盛土を施し、掘削面と遺構確認面との間に十分な保護層が確保できるため、遺構に影響が及ばないと判断し現状保存の措置をとることとした。

4. 別所遺跡第25・26地点 (第5図)

別所遺跡は市域南部の水子地区で東武東上線沿線に跨って位置し、武蔵野台地縁辺部に立地する。遺跡は南東側に柳瀬川と荒川低地を臨み、西側には小支谷を挟んで北通遺跡、北側には栗谷ツ遺跡、東側に正網南遺跡と接している。

これまでに24地点の調査が実施され、縄文時代早期

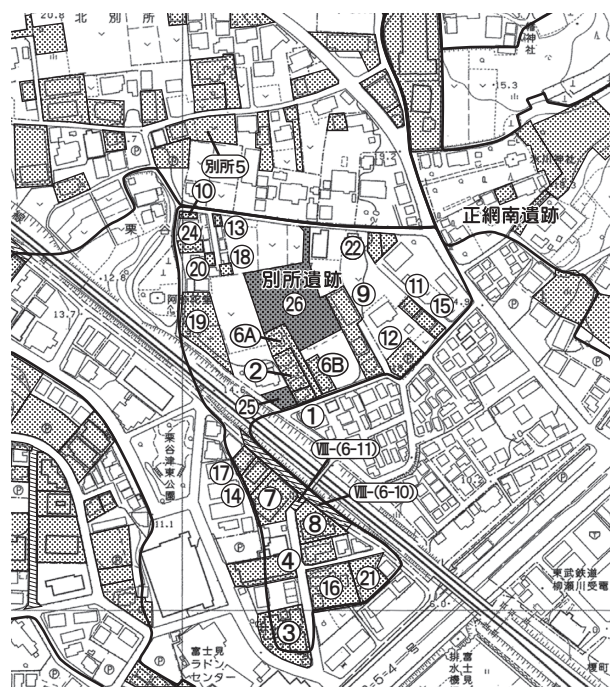
～中期、弥生時代後期～古墳時代初頭、古墳時代後期、平安時代を中心とした大規模な複合遺跡であると想定される。検出された主な遺構は、縄文時代早期後葉～前期黒浜式期の住居跡4軒、弥生時代後期末～古墳時代前期初頭の住居跡15軒、古墳時代後期鬼高式期住居跡、平安時代住居跡などが確認されている。

【第25地点】

第25地点は遺跡中央部西寄りの東武東上線沿線に位置する。個人住宅建設に伴い、平成29年8月4日に試掘調査を実施した結果、弥生時代後期末～古墳時代前期初頭の住居跡1軒が、調査区と隣接地に跨った形で確認された。確認された遺構は掘削を受ける位置で検出されたため、8月17日～8月18日に発掘調査を行った。なお、報告については次年度以降に行う予定である。

【第26地点】

第26地点は遺跡中央部北寄りの東武東上線沿線、第25地点の東側に位置する。宅地造成・分譲住宅の建設に伴い、平成29年10月18日～10月27日に試掘調査を実施した結果、縄文時代住居跡4軒、弥生時代住居跡8軒、平安時代住居跡5軒、溝跡など多くの遺構が確認された。確認された遺構は、地盤改良工事により影響



第5図 別所遺跡第25・26地点 (1/5000)

を受けると判断し記録を保存するための発掘調査を実施した。

発掘調査は富士見市遺跡調査会により行われた。なお、報告については次年度以降に行う予定である。

5. 北通遺跡第81地点（第6図）

北通遺跡は市域南西部の針ヶ谷地区に位置し、北東へ流れる柳瀬川と支谷を南東に臨む台地縁辺部に立地する。遺跡周辺は、柳瀬川によって開析された狭小な谷が樹枝状に広がり、当遺跡も東南北の三方を谷に画された台地上に立地する。

遺跡付近の標高は20m前後で、低地との比高差は約13mを測る。北に栗谷ツ遺跡、東に別所遺跡、南に南通遺跡が、それぞれ小支谷を挟んだ台地上に立地している。

平成28年度までに80地点及び区画整理事業等に伴う発掘調査が行われ、旧石器時代～中・近世に至るまでの遺構が多数検出されており、大規模な複合遺跡であることが判明している。

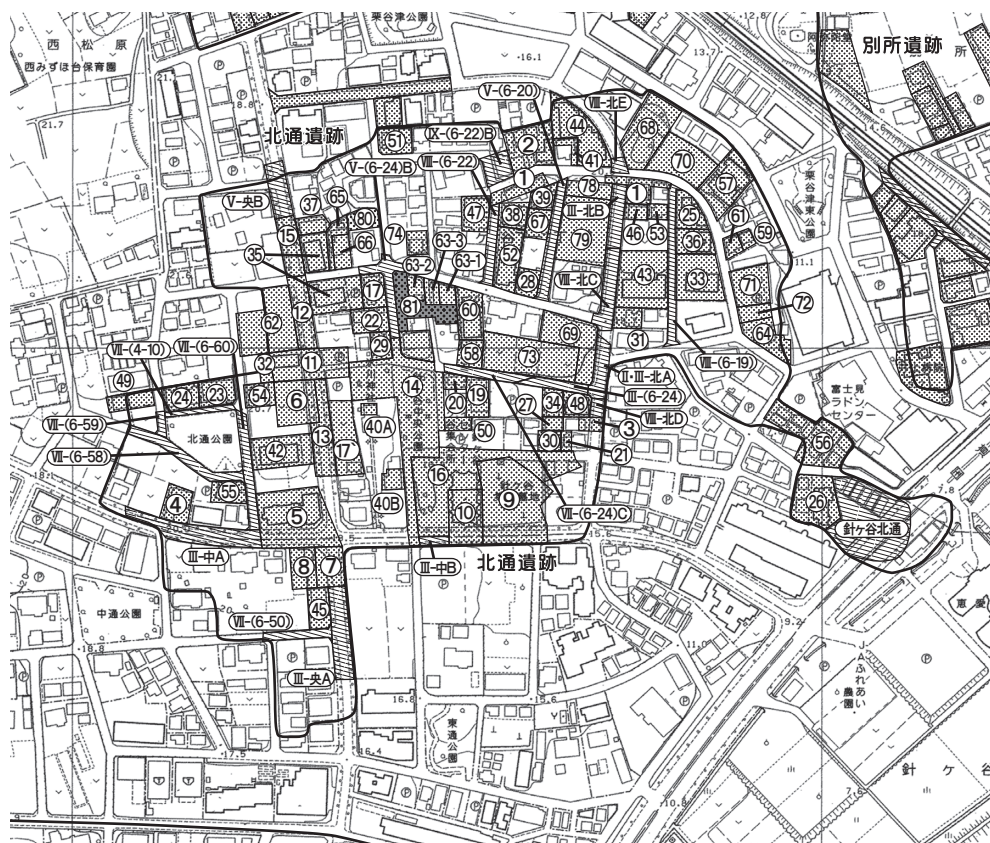
時代別に見ると、縄文時代では早期の撚糸文期からはじまり、早期の条痕文期、前期の関山式期、中期の勝坂式期～加曽利E式期の竪穴住居跡41軒の他、多くの遺構・遺物が検出されている。

弥生時代後期～古墳時代初頭にかけては、竪穴住居跡134軒、方形周溝墓10基が検出されている。また、遺跡中央部で東西に走る断面形がV字状の溝跡が検出され、その北側に竪穴住居跡群、遺跡南部から東に突き出る舌状台地上に方形周溝墓群が確認されている。

古墳時代後期～奈良・平安時代では、竪穴住居跡48軒等が検出され、その分布は遺跡全体に広がっている。

中世では、第14地点・第43地点を中心として、地下式坑、板碑を多数伴う墓坑群、火葬墓群等が検出されている。遺跡南部から東部にかけて、当遺跡周辺を通じていたとされる鎌倉道（羽根倉道）との関連が想定される。

今回調査した第81地点は、遺跡のほぼ中央部に位置し、周辺の既調査の結果から遺構密度は薄いものの遺構の分布が予想される地域であった。共同住宅の建設に伴い平成29年11月6日に試掘調査を実施した結果、縄文時代住居跡1軒、弥生時代住居跡2軒、溝跡などが確認された。駐輪場部分では盛土を施し且つ掘削深度も浅いことから、当該部分で確認された弥生時代住居跡2軒については、工事の影響が及ばないと判断し現状保存の措置をとることとした。また、駐車場の浸透桝設置部分で確認された縄文時代住居跡および溝跡については、遺構に影響が及ぶと判断し記録を保存するための発掘調査を実施した。報告については次年度以降に行う予定である。



第6図 北通遺跡第81地点（1/5000）

第2章 東台遺跡第35地点

第1節 遺跡の概要

1. 遺跡の立地と調査地点の概要

富士見市は、北東側半分を荒川の氾濫により堆積した沖積低地、南西側半分を新河岸川の支流によって開析され、勝瀬支台・鶴瀬支台・水子支台の3つの支台から成る武蔵野台地に分かれている。

東台遺跡は水子支台に位置し柳瀬川を臨む武蔵野台地崖線上に分布する遺跡群のひとつである。崖線には低地に向かって開口する小谷が数多く見受けられ崖下や谷周辺には現在でも地下水が湧き出している地点が複数存在する。本遺跡の位置する崖線下にも湧水地点があり、また西側に隣接する正網遺跡・正網南遺跡が囲む小支谷に存在する湧水地点では生活用水としても利用されていたほどの水量である。遺跡付近の標高は19～20m前後を測り、台地下の低地部分は8m前後で、その比高差は11～12mと急峻な崖を呈する。

柳瀬川を崖下に臨む台地縁辺部は鎌倉道が通っていたと伝えられており、遺跡も帯状に連なるようにして数多く存在している。東台遺跡の西側には正網遺跡・

正網南遺跡・栗谷ツ遺跡・別所遺跡・北通遺跡・南通遺跡、東側には神明遺跡・観音前遺跡が位置する。

東台遺跡では、これまでの発掘調査で検出された遺構には、旧石器時代で第9地点においてナイフ型石器、縄文時代では住居跡は検出されていないが、土坑・炉穴等が検出されている。また、遺物包含層からは前期後半～末葉（諸磯c式、十三菩提式）・中期（加曽利E式）の土器群を中心に、早期～後期にかけての遺物が出土している。弥生時代後期～古墳時代初頭では、遺跡中央部で方形周溝墓3基が検出され、南部の第19地点において当該期の住居跡2軒、第37地点で5軒確認されている。平安時代では、住居跡75軒の他、掘立柱建物跡・溝跡・土坑が多数検出され、その多くは9世紀後半～10世紀初頭にかけてのものである。第41地点では、第67号住居跡において9世紀前半まで遡ると考えられる相模からの搬入品である相模型の坏がまとまって出土している。中世では鎌倉道が崖線に沿って通っており、崖線に近い第9地点から中世以降の土坑群・溝状遺構が密集している。

今回報告する第35地点は、遺跡の中央部からやや西

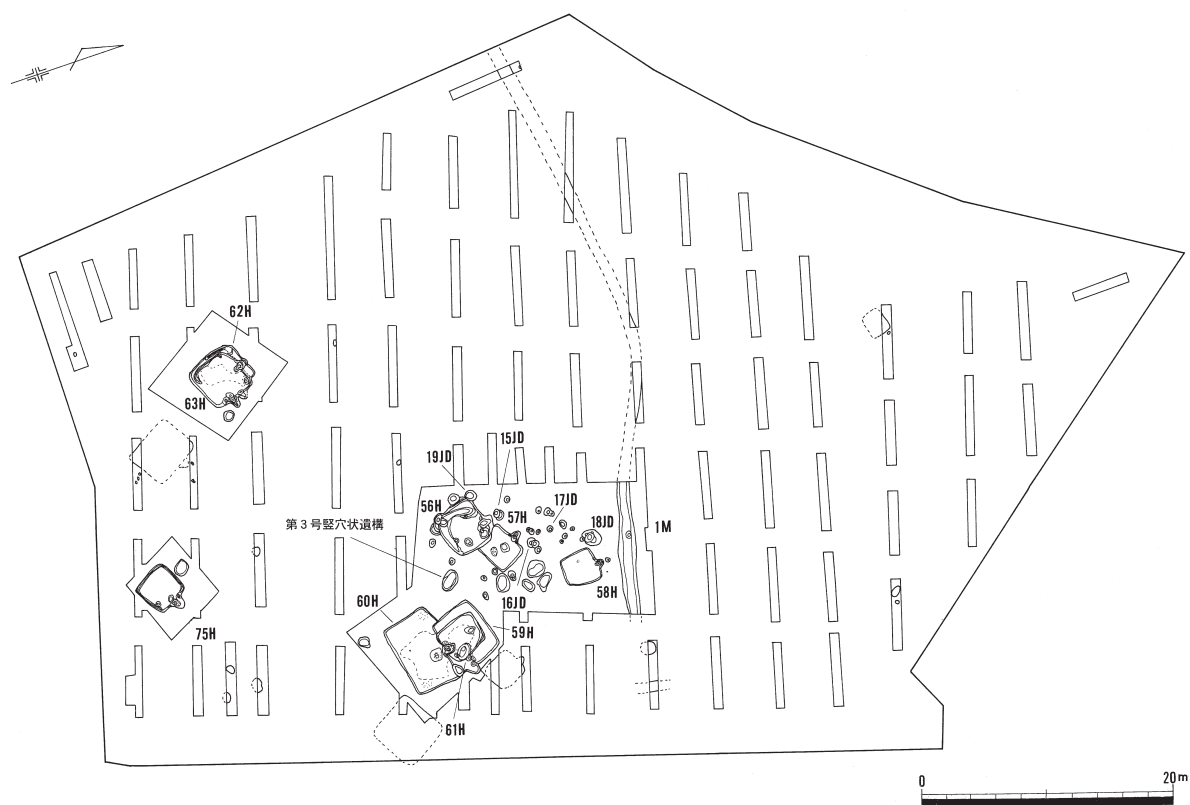
北部に位置する平坦地である。平安時代住居跡や弥生時代後期の方形周溝墓などが検出された第2・3地点に隣接し、多数の遺構が分布する可能性が考えられた。

2. 発掘調査の経過

第35地点は宅地造成に伴い、平成24年5月29日～6月4日に試掘調査を実施した。面積3,437㎡。試掘調査は調査区にトレンチを任意に設定し、重機により表土を除去した後に人力で遺構確認を行った。その結果、地表下40～70cmで平安時代住居跡10軒等の遺構が



第7図 東台遺跡第35地点（1/5000）



第8図 東台遺跡第35地点遺構配置図（1/600）

確認された。

事業主と協議したところ、工事の掘削により影響が及ばない遺構については現状保存とし、現状保存が困難な場所については、記録保存のための発掘調査を実施することとなった。

本調査は平成25年4月4日～平成25年4月30日に実施した。

4月4～5日一本調査開始。遺構分布範囲を確認しながら、表土除去。

4月8日—第56～58号住居跡（56H～58H）精査開始。

4月9日—56H～58Hセクション図作成。

57H・58Hカマドセクション図作成。

第62・63号住居跡（62H・63H）精査開始。

4月11日—58H遺物取上げ作業実施。

4月12日—57H遺物取上げ作業実施。

62H・63Hセクション図作成

4月15日—第59・60号住居跡（59H・60H）精査開始。

63H遺物出土状況図作成、遺物取上げ作業実施。

4月16日—56H・57H平面図作成。

第75号住居跡（75H）精査開始。

4月17日—59H・60Hセクション図作成。

62H・63Hカマドセクション図作成。

4月19日—59H・60Hカマドセクション図作成。

4月22日—62H・63H遺物取上げ作業実施。

4月23日—59H・60H平面図作成。

第61号住居跡（61H）精査開始。

4月24日—62H・63H平面図作成。

4月26日—61Hセクション図・平面図作成。

4月30日—埋戻し作業実施。本調査終了。

本地点は耕作による攪乱が著しいため、遺存状況はあまり良好とはいえない状態であった。

第2節 縄文時代以降の遺構と遺物

1. 土坑

第15号土坑（15JD）（第9図）

〔位置〕 調査区中央部に位置する。

〔構造〕平面形は不整楕円形を呈し、その規模は長軸約1m×短軸約76cm×深さ約55.8cmを測る。長軸は北東－南西方向で、南西側に向かって一段掘り込みが深くなる。断面形は逆台形状を呈し、しっかりと掘り込んでいる。

〔覆土〕淡暗褐色土・暗褐色土・暗黄褐色土を基調とし4層に分層される。

〔遺物出土状況〕覆土から縄文土器の小片がわずかに出土しているのみである。

〔時期〕詳細不明

第16号土坑（16JD）（第9図）

〔位置〕調査区中央部に位置する。

〔構造〕平面形は不整楕円形を呈し、その規模は長軸約96cm×短軸約74cm×深さ約43cmを測る。長軸は北東－南西方向で、北東側に向かって一段掘り込みが深くなる。断面形は椀状を呈し、しっかりと掘り込んでいる。

〔覆土〕淡褐色土・暗褐色土を基調とし4層に分層される。

〔遺物出土状況〕覆土から縄文土器の小片がわずかに出土しているのみである。

〔時期〕詳細不明

第17号土坑（17JD）（第9図）

〔位置〕調査区中央部に位置する。

〔構造〕平面形は不整楕円形を呈し、その規模は長軸約61cm×短軸約56cm×深さ約37.7cmを測る。長軸は南－北方向で、断面形はU字状を呈し、しっかりと掘り込んでいる。

〔覆土〕淡暗褐色土・黄褐色土・暗褐色土・暗黄褐色土を基調とし5層に分層される。

〔遺物出土状況〕覆土から縄文土器の小片がわずかに出土しているのみである。

〔時期〕詳細不明

第18号土坑（18JD）（第9図）

〔位置〕調査区中央部に位置する。

〔構造〕平面形は不整楕円形を呈し、その規模は長軸約1.54m×短軸約1.2m×深さ約25cmを測る。長軸は

北東－南西方向で、断面形は皿状を呈する。

〔覆土〕暗褐色土・淡暗褐色土・暗黄褐色土を基調とし4層に分層される。

〔遺物出土状況〕覆土から縄文土器の小片がわずかに出土しているのみである。

〔時期〕詳細不明

第19号土坑（19JD）（第9図）

〔位置〕調査区中央部に位置する。

〔構造〕平面形は不整楕円形で、その規模は長軸約85cm×短軸約72cm×深さ約64.3cmを測る。長軸は北東－南西方向で、断面形はU字状を呈し、しっかりと掘り込んでいる。

〔覆土〕暗褐色土・淡暗褐色土・暗黄褐色土を基調とし4層に分層される。

〔遺物出土状況〕覆土から縄文土器の小片がわずかに出土しているのみである。

〔時期〕詳細不明

第3節 平安時代の遺構と遺物

1. 住居跡

第56号住居跡（56H）（第10～12図）

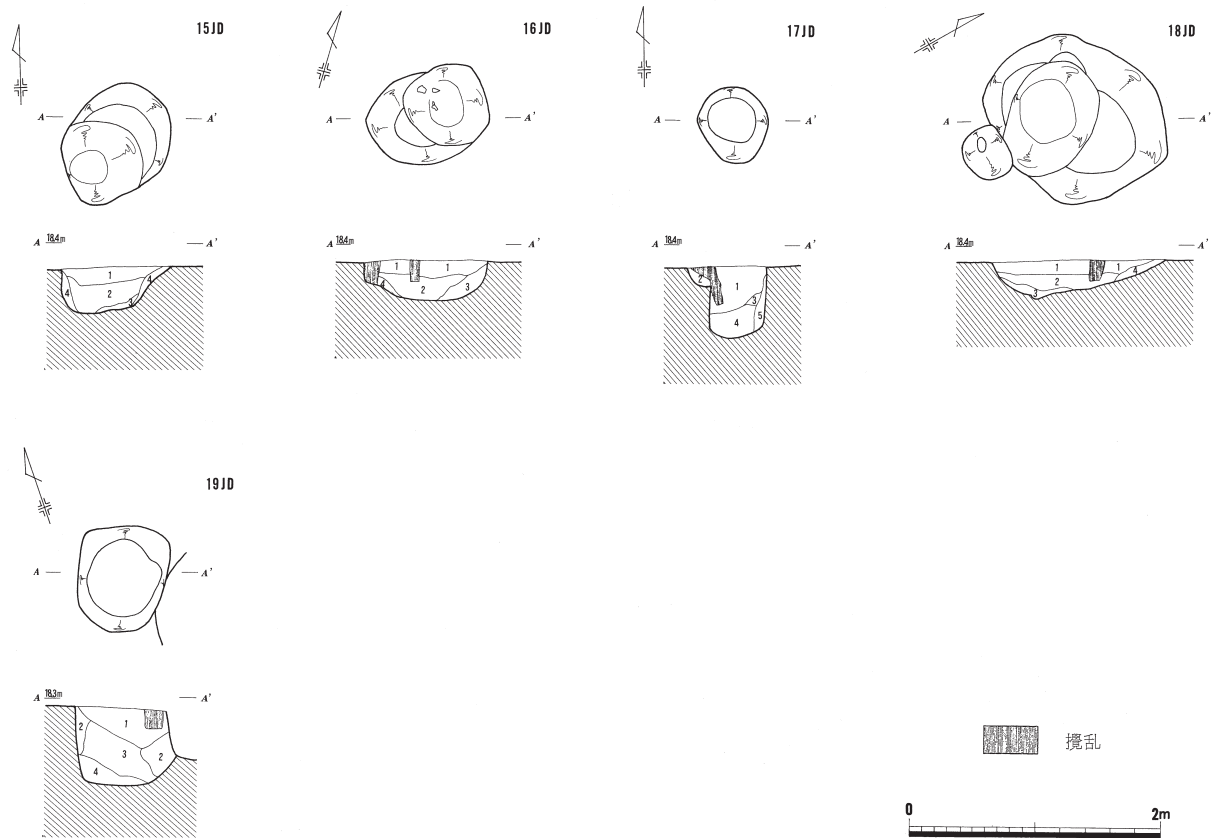
〔位置〕調査区中央部からやや東寄りに位置する。

〔構造〕（平面形）方形（規模）住居跡の北東側で第57号住居跡（57H）と重複している。規模は長軸約4m×短軸約3.5m×深さ43～52cmを測る。

（主軸方位）N－24°－W（壁高）壁はほぼ垂直に立ち上がり、床面から約48cmを測る。（壁溝）なし（床）住居跡の中央部にわずかに貼床による硬化面が残るのみである。西側および南側は壁に沿って軟弱で、掘り方と考えられる掘り込みが確認できた。（柱穴）確認できなかった。

〔覆土〕暗褐色土・褐色土・淡暗褐色土を基調とし7層に分層される。

〔カマド〕住居跡北側壁面の東寄りに間口幅約1.4m×奥行約80cmの規模で掘り込んで構築されている。カマド内部には長軸約1.1m×短軸約64cm×深さ約18.5cmの不整楕円形の掘り込みを有する。カマドは土層から天井部分が崩落したと考えられる白色粘土



第15号土坑 (15JD)

- | | |
|---------|------------------------------------|
| 1 淡暗褐色土 | ローム粒をわずかに含む。しまり強。粘性弱。 |
| 2 暗褐色土 | 黒色味が強い色調を呈する。ローム粒をわずかに含む。しまり強。粘性弱。 |
| 3 暗褐色土 | ローム粒を多量に含む。しまり強。粘性弱。 |
| 4 暗黄褐色土 | ローム粒・ロームブロックを多量に含む。しまり強。粘性弱。 |

第16号土坑 (16JD)

- | | |
|---------|-------------------------|
| 1 淡褐色土 | ローム粒をわずかに含む。しまりやや強。粘性弱。 |
| 2 暗褐色土 | ローム粒をわずかに含む。しまり強。粘性弱。 |
| 3 暗褐色土 | ローム粒を少量含む。しまり強。粘性弱。 |
| 4 淡暗褐色土 | ローム粒を多量に含む。しまり強。粘性弱。 |

第17号土坑 (17JD)

- | | |
|---------|------------------------------|
| 1 淡暗褐色土 | ローム粒をわずかに含む。しまり強。粘性弱。 |
| 2 黄褐色土 | ローム粒・ロームブロックを多量に含む。しまり強。粘性弱。 |
| 3 淡暗褐色土 | ローム粒を含む。しまり強。粘性弱。 |
| 4 暗褐色土 | ローム粒を少量含む。しまり強。粘性弱。 |
| 5 暗黄褐色土 | ローム粒を多量に含む。しまり強。粘性弱。 |

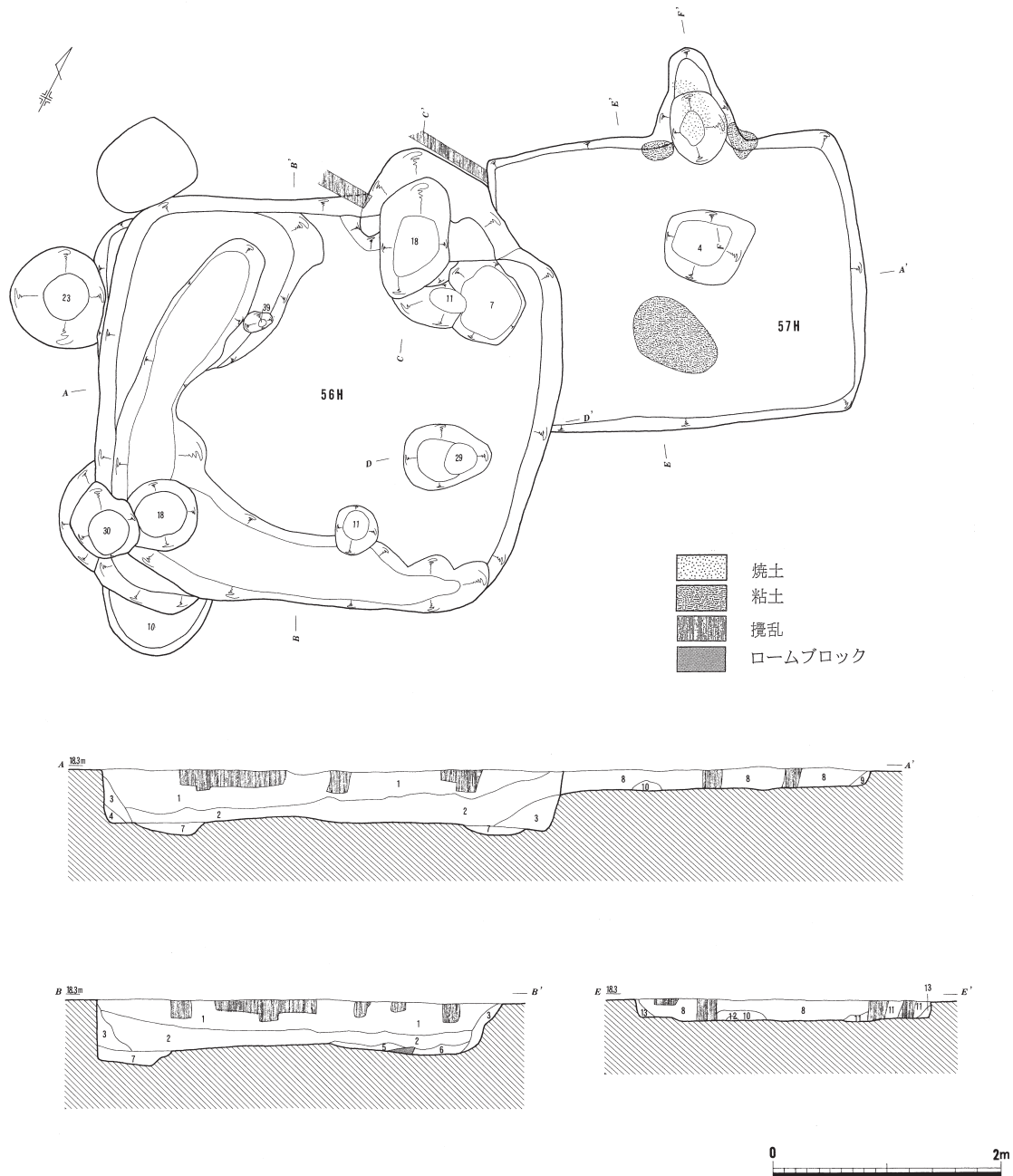
第18号土坑 (18JD)

- | | |
|---------|--------------------------------------|
| 1 暗褐色土 | しまり強。粘性弱。 |
| 2 淡暗褐色土 | やや黄色味が強い色調を呈する。ローム粒をやや多く含む。しまり強。粘性弱。 |
| 3 淡暗褐色土 | 2層よりやや明るい色調を呈する。ローム粒を多量に含む。しまり強。粘性弱。 |
| 4 暗黄褐色土 | ロームブロックを多量に含む。しまり強。粘性弱。 |

第19号土坑 (19JD)

- | | |
|---------|-------------------------------------|
| 1 暗褐色土 | やや茶色味が強い色調を呈する。炭化物を少量含む。しまり強。粘性弱。 |
| 2 淡暗褐色土 | ローム粒を含む。しまり強。粘性弱。 |
| 3 淡暗褐色土 | 2層よりやや暗い色調を呈する。炭化物をわずかに含む。しまり強。粘性弱。 |
| 4 暗黄褐色土 | ローム粒を多量に含む。しまり強。粘性弱。 |

第9図 第15～19号土坑 (15～19JD ; 1/60)



第56号・第57号住居跡 (56H・57H：A-A'、B-B'、E-E')

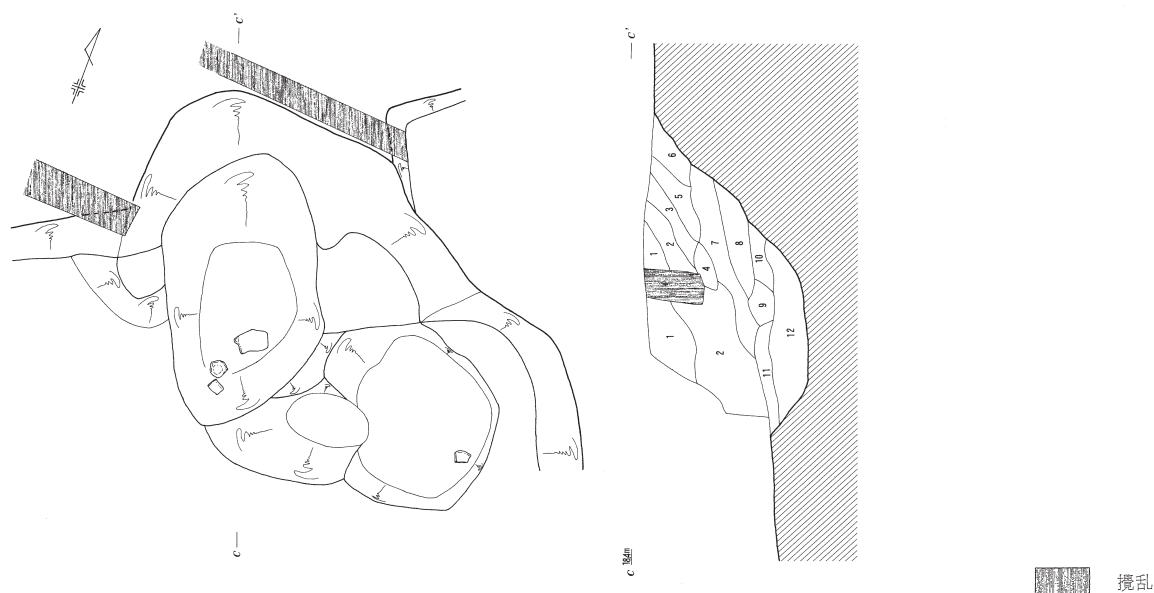
【56H】

- | | |
|----------|---|
| 1 暗褐色土 | ローム粒をわずかに含む。黒色味が強い色調を呈する。しまりあり。粘性弱。 |
| 2 褐色土 | ローム粒を少量含む。焼土粒を含む。炭化物をわずかに含む。やや赤色味のある色調を呈する。しまりあり。粘性弱。 |
| 3 淡暗褐色土 | 2層よりやや暗い色調を呈する。ローム粒・ロームブロックを少量含む。しまりあり。粘性弱。 |
| 4 淡暗褐色土 | 3層より明るい色調を呈する。ローム粒を多量に含む。しまり弱。粘性弱。 |
| 5 淡暗褐色土 | 3層と類似する色調を呈する。ローム粒・ロームブロックを少量含む。しまりやや強。粘性弱。 |
| 6 淡暗褐色土 | 粘土粒・焼土粒・ローム粒を含む。炭化物をわずかに含む。しまりやや強。粘性弱。 |
| 7 淡暗黄褐色土 | ローム粒を多量に含む。しまり弱。粘性弱。 |

【57H】

- | | |
|-------------|--|
| 8 黒褐色土 | ローム粒を少量含む。しまりやや強。粘性弱。 |
| 9 淡暗褐色土 | ローム粒をわずかに含む。しまりあり。粘性弱。 |
| 10 黒褐色土 | 8層より黒色味が強い色調を呈する。粘土粒・粘土ブロックを多量に含む。焼土粒をわずかに含む。しまりやや強。粘性弱。 |
| 11 黒褐色土 | 8層より暗く10層より明るい色調を呈する。ローム粒を少量含む。しまりあり。粘性弱。 |
| 12 白色粘土ブロック | |
| 13 暗黄褐色土 | ローム粒多量に含む。しまりあり。粘性弱。 |

第10図 第56号・第57号住居跡 1 (56H・57H：1/60)



第56号住居跡カマド (56H : C-C')

- | | | | |
|-----------------|---|--------------------|---|
| 1 暗褐色土 | 黒色が強い色調を呈する。ローム粒・焼土粒をわずかに含む。しまり強。粘性弱。 | 7 淡暗褐色土 | やや赤色味のある色調を呈する。焼土粒を多量に含む。しまりやや強。粘性弱。 |
| 2 淡暗褐色土 | ローム粒を少量含む。焼土粒をやや多く含む。炭化物・粘土粒をわずかに含む。しまりやや強。粘性弱。 | 8 赤暗褐色土 | 6層より赤色味が強い色調を呈する。焼土粒を多量に含む。炭化物をわずかに含む。しまりやや強。粘性弱。 |
| 3 淡暗褐色土 | 3層よりやや明るい色調を呈する。焼土粒をわずかに含む。粘土粒をやや多く含む。しまりやや強。粘性弱。 | 9 淡暗褐色土 | 7層より明るい色調を呈する。焼土粒を含む。炭化物をわずかに含む。しまり弱。粘性弱。 |
| 4 白色粘土ブロック | | 10 褐色土 | 粘土粒を多量に含む。焼土粒・炭化物をわずかに含む。しまりやや強。粘性やや強。 |
| 5 粘土粒と焼土粒を混在した層 | 被熱した粘土層で天井部の崩落層と考えられる。しまり強。粘性ややあり。 | 11 黒褐色土 | 焼土粒を少量含む。粘土粒・炭化物をわずかに含む。しまりあり。粘性弱。 |
| 6 赤暗褐色土 | 焼土粒・焼土ブロックを多量に含む。しまり強。粘性弱。 | 12 焼土粒と粘土粒が混在した褐色土 | ローム粒を含む。ボソボソした土層。しまりやや強。粘性弱。 |



第11図 第56号・第57号住居跡 2 (56H・57H ; 1/30)

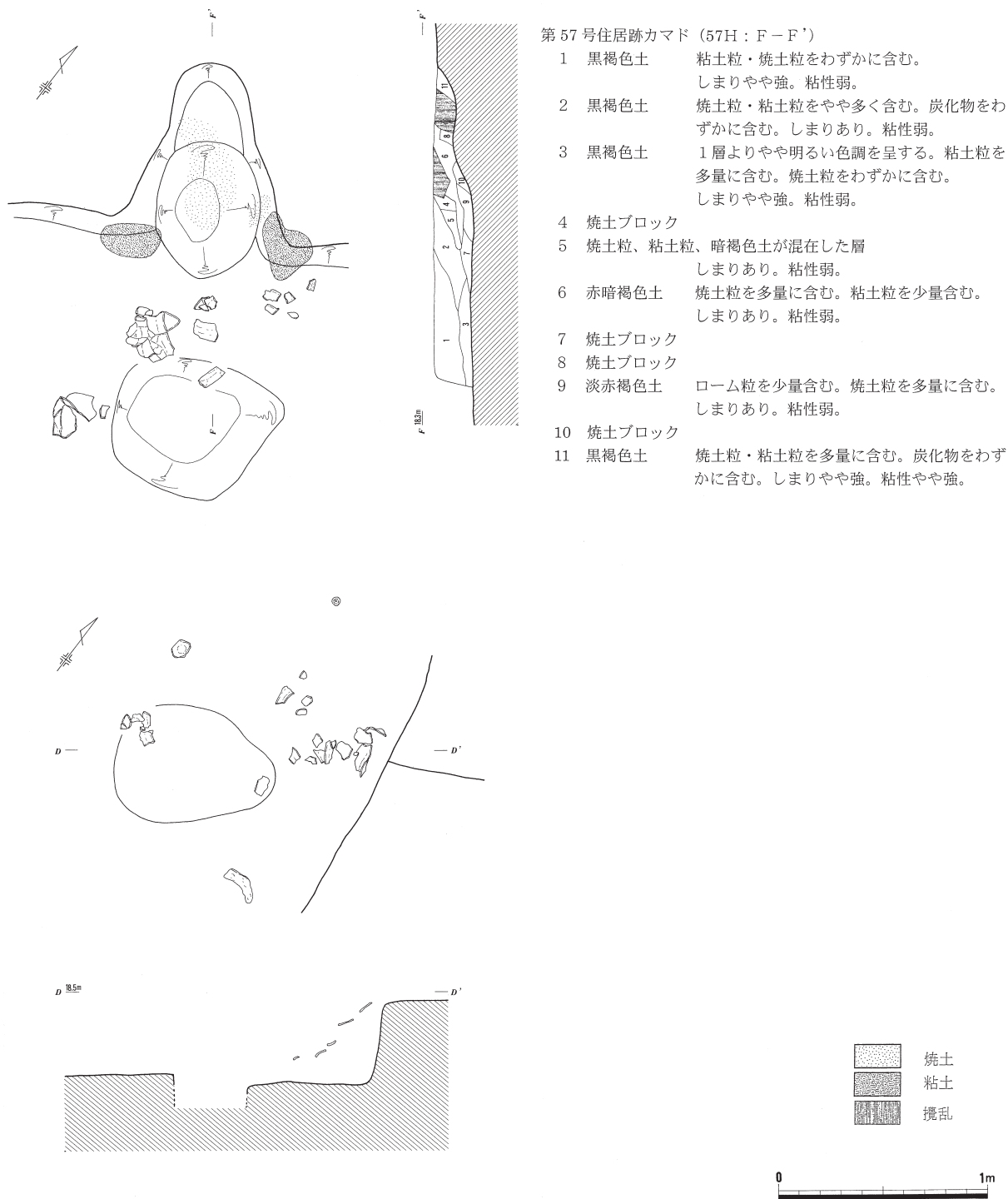
層がかるうじて観察できる。カマドの土層は、暗褐色土・淡暗褐色土を基調として12層に分層され、下層部に焼土を多量に含んだ層が厚く堆積している状況が認められた。

[遺物出土状況] カマド内部からは土師器の甕 (第22図10) が出土している。住居跡覆土から須恵器の坏・皿・甕・長頸壺の破片や土師器の甕・坏の小片が出土している。その他に石製紡錘車 (第22図13)

や鉄製品として鎌や紡錘車 (第24図59・60) が認められる。

[時期] 9世紀後半～10世紀初頭

[備考] 住居跡の北東側で57Hと重複し切っている。土層の状況から時期的に56Hの方が新しいと考えられる。



第12図 第56号・第57号住居跡3 (56H・57H; 1/30)

第56号住居跡出土遺物

(第22図1～13、第24図59・60)

1～5は須恵器の坏。1は7分の1残存。法量は口

径13cm(推定)×底径5.6cm(推定)×器高3.4cm。口
クロ成形。体部の開きが大きく、成形時の稜が強く認
められる。色調は暗灰色。胎土に1mmの礫を少量含

み、焼成堅緻。底面に糸切り痕が認められる。

2は完形品。法量は口径12.1cm×底径5.3cm×器高4.3cm。ロクロ成形。体部の開きが大きく、成形時の体部上部の稜が強く認められる。色調は暗灰色。胎土に1～3mmの礫がやや多く、焼成堅緻。底面に糸切り痕が認められる。

3は7分の1残存。法量は口径13cm（推定）×底径6cm（推定）×器高4.4cm。ロクロ成形。成形時の体部の稜は弱い。色調は灰色。胎土に1～2mmの礫を少量および白針状物質を含む。底面に糸切り痕が認められる。南比企産。

4は底面を欠損。法量は口径12.6cm（推定）×底径不明×現存高3.6cm。ロクロ成形。成形時の体部の稜は弱い。色調は暗灰色。胎土に1mmの礫をやや多く含む。

5は3分の1欠損。法量は口径12.3cm×底径5.7cm×器高3.8cm。ロクロ成形。色調は暗灰褐色。胎土に1～3mmの礫を多量含み、焼成堅緻。底面に糸切り痕が認められる。

6は須恵器の皿。底面ほぼ欠損。法量は口径16cm（推定）×底径7cm（推定）×器高2.6cm。ロクロ成形。色調は灰褐色。胎土に1～2mmの礫をやや多く含み、焼成堅緻。

7は高台付きの須恵器の坏。墨書土器。2分の1欠損。法量は口径13.4cm（推定）×底径6.7cm×器高5.6cm。ロクロ成形。底面を糸切り後に高台を付けている。色調は淡灰色。胎土は緻密で焼成堅緻。体部に「可」または「成」とも考えられる文字が認められる。

8は須恵器の高台付きの坏。底部破片。法量は口径不明×底径7.3cm×現存高2.4cm。ロクロ成形。色調は灰褐色。胎土に1～3mmの礫をやや多く含み、焼成堅緻。

9は須恵器の甕。肩部から胴部にかけて灰釉が施される。ロクロ成形。色調は暗灰色。胎土に1～2mmの礫を少量含み、焼成堅緻。

10～12は土師器の甕。10はカマドより出土。口径・底径不明×現存高15.4cm。色調は暗橙褐色。頸部はコの字状にくびれ、口縁は横方向にナデ整形、胴部上半は斜位に、下半は縦方向にヘラケズリ整形を施す。胴部に煤が付着。胎土緻密。焼成堅緻密。

11は口縁部破片。法量は口径20.1cm×底径不明×現存高9.2cm。色調は赤橙色。口縁は横方向にナデ整形、胴部上半は横方向にヘラケズリ整形を施す。胎土緻密。焼成堅緻密。

12は口縁部破片。法量は口径19.8cm×底径不明×現存高5.5cm。色調は橙色。口縁は横方向にナデ整形、胴部上半は横方向にヘラケズリ整形を施す。胎土緻密。焼成堅緻。

13は石製紡錘車。石材は滑石。断面は台形状を呈し、上面の径は3.1cm、下面の径は4.1cm、高さ1.5cm、中心部に穿たれた孔は径7.5mmを測る。重量35g。整形した際の擦痕が認められる。

第30図59、60は鉄製品。59は鎌。法量は長さ17.4cm×最大幅5.3cm×最大厚1.5cm。重量90g。刃部は緩やかに湾曲し、鎌の柄部に近い部分で直角に曲がっている。

60は紡錘車の円盤部分。法量は最大径5.8cm×最大厚6mm。重量25g。

第57号住居跡（57H）（第10・12図）

[位置] 調査区中央部からやや東寄りに位置する。

[構造]（平面形）方形（規模）住居跡北西端で56Hと重複し、切られている。遺構の規模は長軸約3.06m×短軸約2.56m×深さ14～18cmを測る。（主軸方位）N—31°—W（壁高）壁はほぼ垂直に立ち上がり、床面から16cm前後を測る。（壁溝）なし（床）遺構が浅いためか、遺存状況が不良で貼床による硬化面はほとんどが残っていない。（柱穴）確認できなかった。

[覆土] 黒褐色土・淡暗褐色土・を基調とし6層に分層される。

[カマド] 住居跡北側中央部の壁面に間口幅約85cm×奥行約78cmの規模で掘り込んで構築されている。カマド内部には長軸約66cm×短軸約50cm×深さ約3cmの楕円形の掘り込みを有する。土層は黒褐色土・赤暗褐色土を基調とし11層に分層される。下層部に焼土を含む層が堆積し、カマド両側の袖部分にわずかにカマドを構築した粘土塊が確認できた。

[遺物出土状況] カマドの前庭部から須恵器の坏・蓋（第22図14・15）や土師器の甕の破片（第22図18）、

支脚が出土している。その他に住居跡の覆土から須恵器の坏・長頸壺の小片、土師器の甕が少量出土している。

〔時期〕 10世紀前半

〔備考〕 住居跡南西東側を56Hと重複し、切られている。

第57号住居跡出土遺物（第22図14～18）

14は須恵器の坏。カマドより出土。法量は口径15cm（推定）×底径不明×現存高5.7cm。ロクロ成形。色調は淡黄褐色。胎土は緻密でやや砂質状。在地系か。

15は須恵器の蓋。カマドより出土。法量は口径18cm（推定）×現存高1.5cm。ロクロ成形。色調は淡灰色。胎土緻密。焼成堅緻。

16～18は土師器の甕。16は台付き甕の台部。法量は底径11.8cm（推定）×現存高3.3cm。色調は淡橙色。外面は横方向にヘラケズリ整形、内面はナデ整形を施す。胎土に1～2mmの礫を少量施す。焼成堅緻。

17は台付き甕の台部。法量は底径8.6cm（推定）×現存高3.4cm。色調は暗橙褐色。内外面を横方向にヘラケズリ整形を施す。胎土緻密。焼成堅緻。

18は胴部下半を欠損。カマドより出土。法量は口径21.7cm×最大胴径22.6cm×現存高20.2cm。色調は暗橙褐色。頸部がくの字状に近い形でくびれる。口縁部は横方向にナデ整形、胴部上半は横方向に、下半は縦方向にヘラケズリ整形を施す。胴部に煤付着。胎土に緻密。焼成堅緻。

第58号住居跡（58H）（第13図）

〔位置〕 調査区中央部よりやや東寄りに位置する。

〔構造〕（平面形）方形（規模）規模は長軸約2.8m×短軸約2.7mを測る。南側は北側と比してやや住居幅が狭まる。（主軸方位）N—7°—W（壁高）住居跡の上層部は削平され攪乱が著しいため、壁の遺存状況は不良である。壁はほぼ垂直に立ち上がり、床面から10～14cmを測る。（壁溝）なし（床）攪乱による影響か、床面は軟弱で硬化面はほとんど残っていない。（柱穴）確認できなかった。

〔覆土〕 淡暗褐色土・黒褐色土を基調とし、4層に分層される。

〔カマド〕 住居跡北側の壁面中央部に間口幅約84cm×奥行約57cmの規模で掘り込んで構築されている。カマド内部には長軸約41cm×短軸約28cm×深さ約5.7cmの楕円形の掘り込みを有する。土層は暗褐色土・赤暗褐色土を基調とし6層に分層される。耕作による攪乱が著しく、カマドを構築した白色粘土層もほとんど認められない状態であった。

〔遺物出土状況〕 カマド内部の掘り込みから鉄製の刀子が1点（第24図61）出土しているのみである。

〔時期〕 詳細不明

第58号住居跡出土遺物（第24図61）

61は鉄製の刀子。カマドより出土。中央部分が欠損している。法量は刃部が長さ5.2cm×最大幅1.45cm×最大厚1cm。重量4g。柄部が長さ8cm×最大幅1.4cm×最大厚1cm。重量12g。

第59号住居跡（59H）（第14・15図）

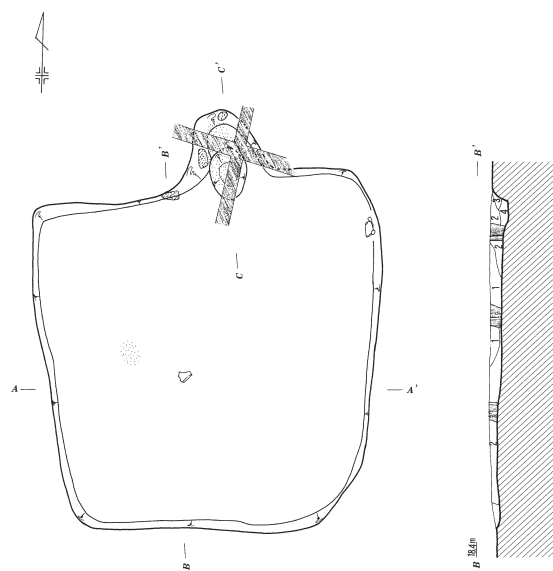
〔位置〕 調査区東端に位置する。

〔構造〕（平面形）方形（規模）規模は長軸約4.6m×短軸約4.15mを測る。住居跡南側で第60号住居跡（60H）と重複し切られている。また、ひとまわり小さい第61号住居跡（61H）が59Hの範囲内に収まる形で重複している。（主軸方位）E—23°—N（壁高）壁はほぼ垂直に立ち上がり、床面から18～20cmを測る。（壁溝）なし（床）攪乱の影響が著しいが、住居跡中央部で貼床による硬化面が残っている。（柱穴）確認できなかった。

〔覆土〕 攪乱による影響が著しいが、確認できる部分では暗褐色土・淡暗褐色土を基調とし、4層に分層される。

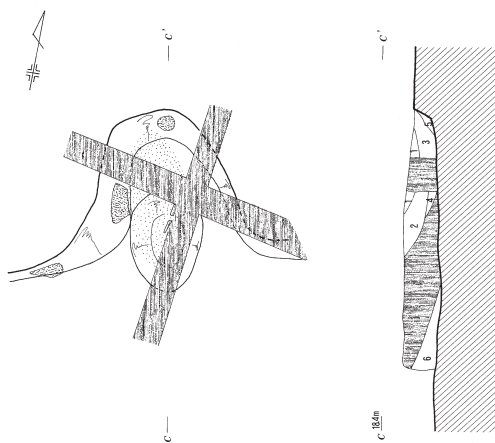
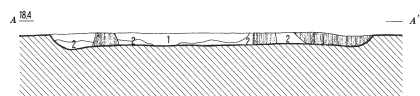
〔カマド〕 住居跡東側壁面の南寄りに間口幅約1.08m×奥行約60cmの規模で掘り込んで構築されている。カマド内部に長軸約42cm×短軸約37cm×深さ約11cm、前庭部に径約42cm×深さ約16cmの不整形円の掘り込みを有する。土層は暗褐色土・淡褐色土を基調とし13層に分層される。遺存状況は不良で、わずかに白色粘土で構築されたカマド袖部が確認できた。

〔遺物出土状況〕 カマド内部および前庭部から須恵器の坏（第22図19・20）、土師器の甕（第22図21・22）



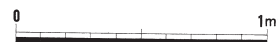
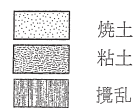
第58号住居跡 (58H : A - A'、B - B')

- | | |
|---------|---------------------------|
| 1 淡暗褐色土 | しまりあり。粘性弱。 |
| 2 黒褐色土 | ローム粒をわずかに含む。しまり強。粘性弱。 |
| 3 暗褐色土 | 白色粘土ブロックを多量に含む。しまりあり。粘性弱。 |
| 4 暗褐色土 | ローム粒をわずかに含む。しまりやや強。粘性弱。 |

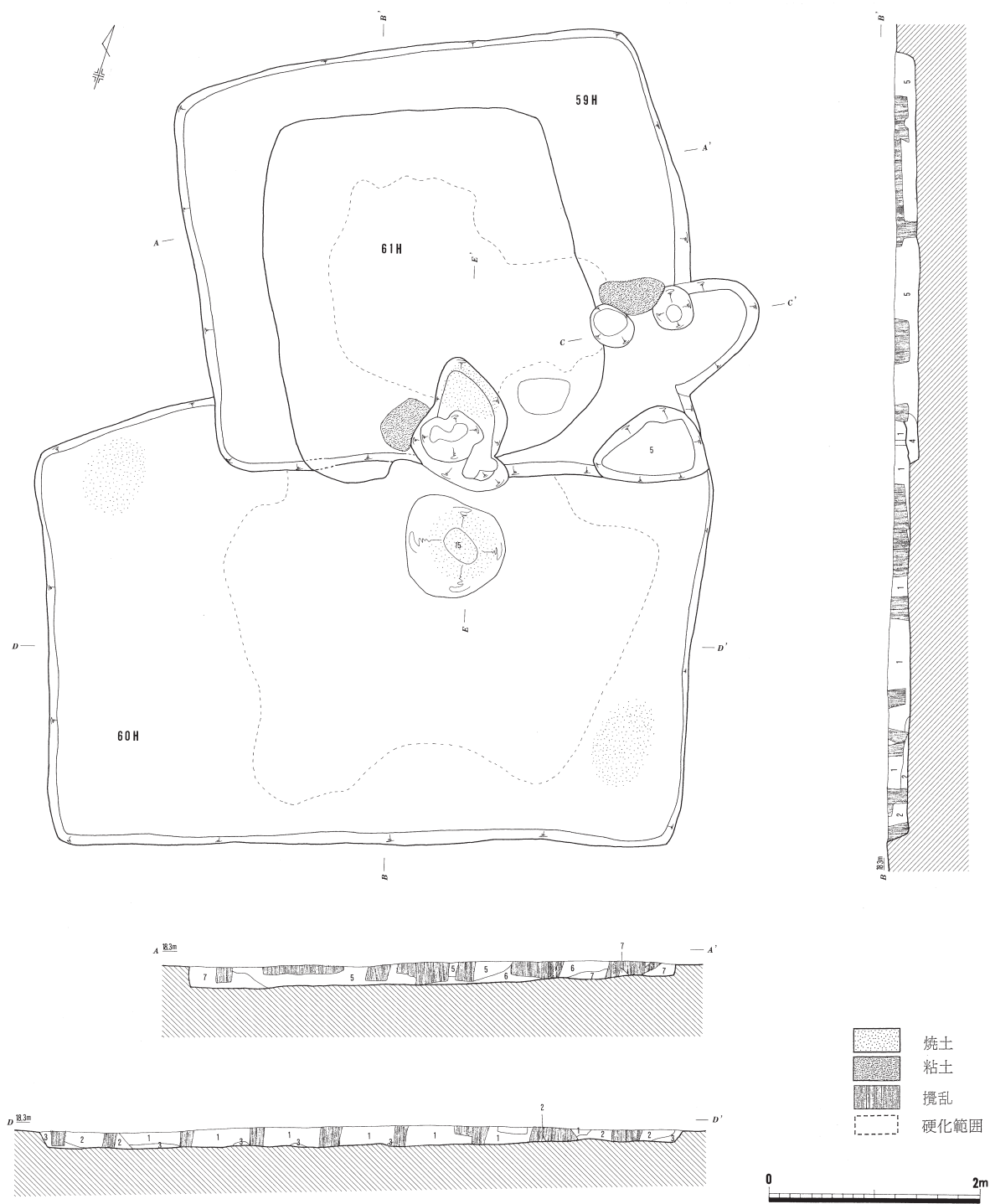


第58号住居跡カマド (58H : C - C')

- | | |
|---------|---|
| 1 暗褐色土 | 焼土粒を少量含む。しまりあり。粘性弱。 |
| 2 暗褐色土 | 焼土粒・粘土粒を少量含む。しまり強。粘性弱。 |
| 3 赤暗褐色土 | 焼土粒を多量に含む。粘土粒・炭化物を含む。しまりやや強。粘性弱。 |
| 4 白色粘土層 | 焼土粒を含む。 |
| 5 白色粘土層 | |
| 6 暗褐色土 | 1層よりやや明るい色調を呈する。ローム粒・焼土粒をわずかに含む。しまり弱。粘性弱。 |



第13図 第58号住居跡 (58H : 1/60、1/30)



第59号・第60号住居跡

(59H・60H：A-A'、B-B'、D-D')

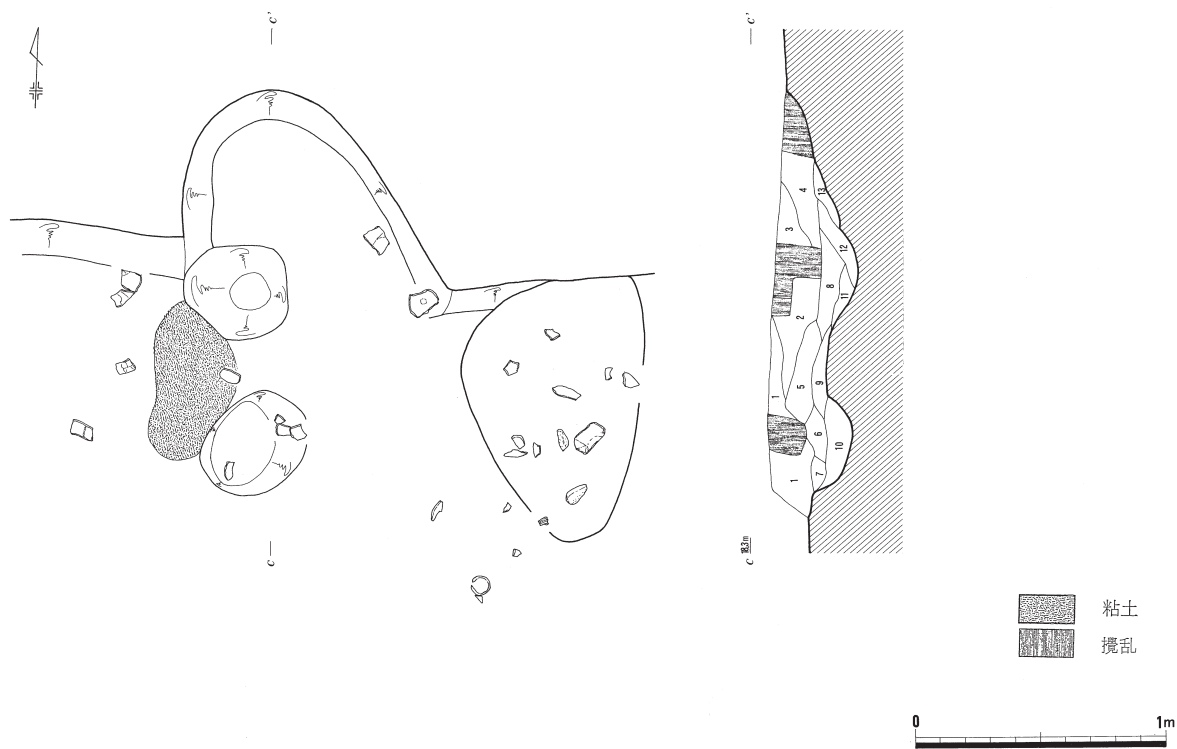
【60H】

- | | | |
|---|-------|--|
| 1 | 暗茶褐色土 | ローム粒・炭化物をわずかに含む。しまりあり。粘性弱。 |
| 2 | 茶褐色土 | やや赤色味の強い色調を呈する。ローム粒をわずかに含む。
焼土粒を少量含む。しまりあり。粘性弱。 |
| 3 | 茶褐色土 | 2層よりやや明るい色調を呈する。ローム粒を多量に含む。しまりあり。粘性弱。 |

【59H】

- | | | |
|---|-------|---|
| 4 | 暗茶褐色土 | 粘土粒をわずかに含む。しまり強。粘性弱。 |
| 5 | 暗褐色土 | 4層よりやや暗い色調を呈し、ボソボソした土層。ローム粒を含む。しまりあり。粘性弱。 |
| 6 | 暗褐色土 | 5層よりやや暗い色調を呈する。ローム粒をわずかに含む。しまり強。粘性弱。 |
| 7 | 淡暗褐色土 | ローム粒・ロームブロックを少量含む。炭化物をわずかに含む。しまりあり。粘性弱。 |

第14図 第59号・第60号住居跡1 (59H・60H；1/60)



第59号住居跡カマド (59H : C-C')

- | | | | |
|----------|--|-----------|---|
| 1 暗褐色土 | ローム粒・焼土粒をわずかに含む。しまり強。粘性弱。 | 7 粘土ブロック | しまり強。粘性やや強。 |
| 2 淡褐色土 | 粘土粒をやや多く含むボソボソした土層。焼土粒をわずかに含む。しまり強。粘性弱。 | 8 暗褐色土 | 焼土粒・炭化物をわずかに含む。しまりあり。粘性弱。 |
| 3 暗褐色土 | 焼土粒をわずかに含む。しまりやや強。粘性弱。 | 9 暗黄褐色土 | ローム粒を多量に含む。焼土粒をわずかに含む。しまり強。粘性弱。 |
| 4 暗褐色土 | やや黒色味が強い色調を呈する。ローム粒を含む。焼土粒を多量に含む。しまりあり。粘性弱。ボソボソした土層。 | 10 淡暗黄褐色土 | ローム粒をやや多く含む。しまり強。粘性弱。 |
| 5 粘土ブロック | やや黄色味がかった色調を呈する。天井部の崩落層と考えられる。しまり強。粘性やや強。 | 11 暗褐色土 | カリカリしたローム粒を含む。しまり強。粘性弱。被熱した影響か固い土層である。 |
| 6 淡暗褐色土 | 黄色味が強い色調を呈する。ローム粒を多量に含む。焼土粒を少量含む。しまりやや強。粘性弱。 | 12 暗褐色土 | 8層よりやや明るい色調を呈する。ローム粒・焼土粒をわずかに含む。しまり強。粘性弱。 |
| | | 13 赤暗褐色土 | 焼土粒を多量に含む。しまり弱。粘性弱。 |

第15図 第59号・第60号住居跡2 (59H・60H : 1/30)

が出土している。他にもカマドの周辺部で土器小片や須恵器坏片を転用した紡錘車の未成品(第22図25)が認められる。

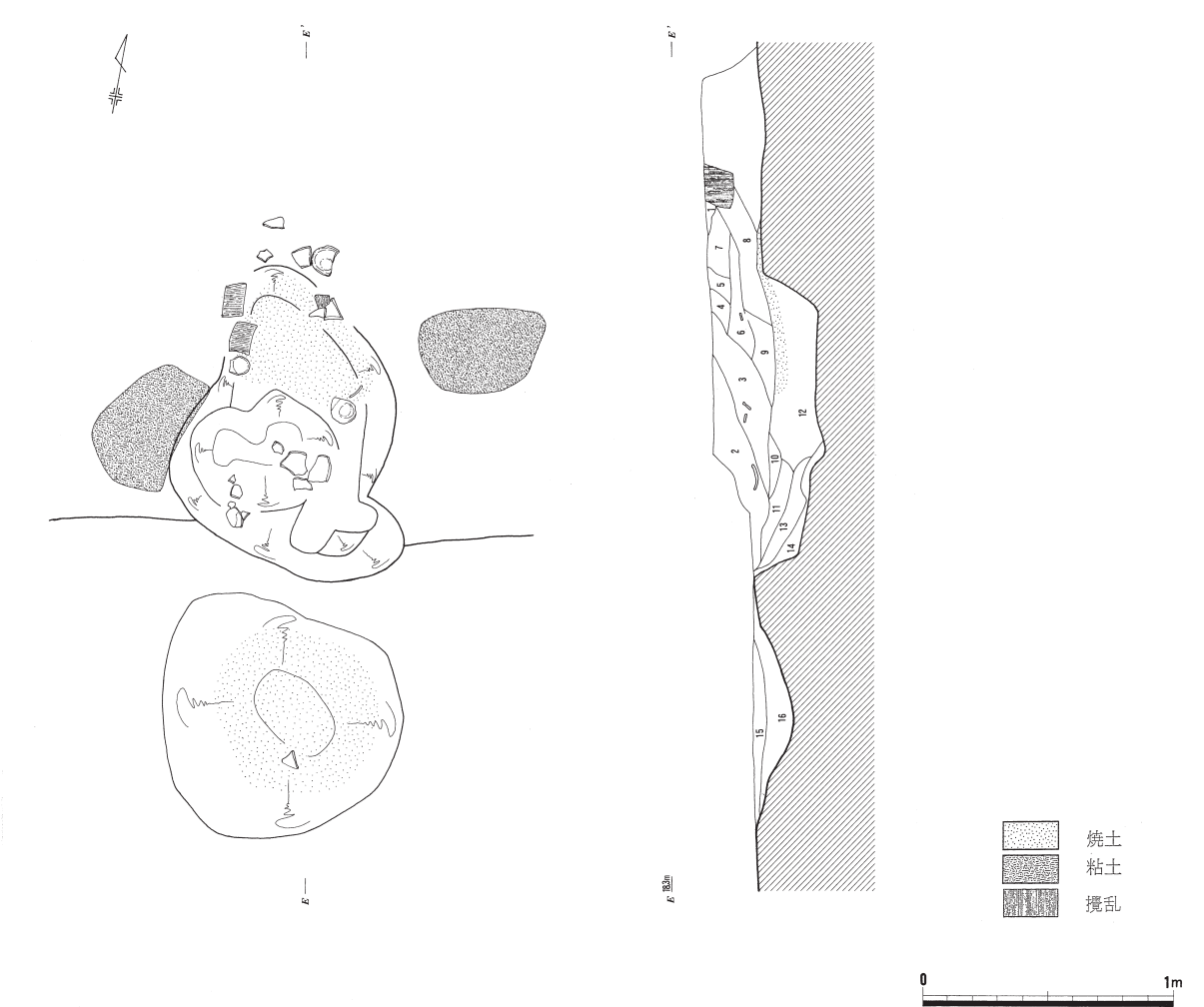
[時期] 10世紀初頭

[備考] 60H・61Hと重複しており、その新旧は土層の切り合い関係から考え、旧い方から順に61H⇒59H⇒60Hとなる。

第59号住居跡出土遺物(第22図19～25)

19、20は須恵器の坏。19はカマドより出土。法量は口径13.6cm(推定)×底径6.3cm(推定)×器高4.5cm。ロクロ成形。色調は灰褐色。成形時の体部の稜が強く、底面に糸切り痕が認められる。胎土緻密。焼成堅緻。

20はカマドより出土。法量は口径14.4cm(推定)×底径不明×現存高4cm。ロクロ成形。色調は淡橙褐色。成形時の体部の稜が強く認められる。胎土は緻密



第60号住居跡カマド（60H：E-E'）

- | | | | |
|---------|---|-----------|--|
| 1 淡暗褐色土 | 焼土粒・粘土粒を少量含む。しまり強。粘性弱。 | 8 淡暗褐色土 | 6層と類似した色調を呈する土層。焼土粒・粘土粒を含む。しまりやや強。粘性弱。 |
| 2 暗褐色土 | 黒色味が強い色調を呈する。焼土粒をわずかに含む。しまりやや強。粘性弱。 | 9 焼土ブロック | |
| 3 暗褐色土 | 2層よりやや明るい色調を呈する。焼土粒を少量含む。炭化物をわずかに含む。しまりあり。粘性弱。 | 10 焼土ブロック | |
| 4 淡暗褐色土 | 焼土粒・粘土粒をわずかに含む。しまり強。粘性弱。 | 11 暗褐色土 | 2層やや暗い色調を呈する土層。焼土粒をわずかに含む。しまりやや強。粘性弱。 |
| 5 淡暗褐色土 | 4層よりやや暗い色調を呈する。焼土粒を少量含む。粘土粒をわずかに含む。しまり強。粘性弱。 | 12 暗褐色土 | ローム粒をわずかに含む。しまりあり。粘性弱。 |
| 6 淡暗褐色土 | 5層よりやや明るく4層より暗い色調を呈する。焼土粒・炭化物をわずかに含む。しまりあり。粘性弱。 | 13 暗黄褐色土 | ローム粒を多量に含む。しまりやや強。粘性弱。 |
| 7 淡褐色土 | 焼土粒を少量含む。粘土粒をやや多く含む。炭化物をわずかに含む。しまり強。粘性弱。 | 14 淡暗黄褐色土 | ローム粒を非常に多く含む。しまりやや強。粘性弱。 |
| | | 15 赤暗褐色土 | 焼土粒を多量に含む。しまり弱。粘性弱。カマド前庭部の掘り込みの土層。 |
| | | 16 淡暗黄褐色土 | やや赤色味がある色調を呈する。ローム粒を多量に含む。焼土粒を少量含む。しまりやや強。粘性弱。 |

第16図 第59号・第60号住居跡3（59H・60H；1/30）

だが、砂質状。焼成堅緻。在地系か。

21～24は土師器の甕。21はカマドより出土。5分の1残存。法量は口径14.6cm（推定）×底径不明×現存高16.2cm。色調は暗橙褐色。口縁は横方向にナデ整形、胴部の上半は横方向に、下半は縦方向にヘラケズリ整形、内面はナデ整形を施す。

22は台付き甕の底部破片。カマドより出土。法量は口径・底径不明×現存高6.4cm。色調は淡暗橙褐色。胴部の下半は縦方向にヘラケズリ整形、内面はナデ整形を施す。胎土緻密。焼成堅緻密。

23は口縁部破片。色調は橙褐色。口縁は横方向にナデ整形、胴部の上半は横方向にヘラケズリ整形を施す。胎土緻密。焼成堅緻。

24は口縁部破片。色調は暗橙褐色。口縁は横方向にナデ整形、胴部の上半は横方向にヘラケズリ整形を施す。胎土に1mmの礫をやや多く含み、焼成堅緻。

25は土製紡錘車の未成品。法量は径6.9～7cm、厚さ9.5～10.3cm。色調は淡黄褐色。在地系の坏の底部を再利用し、円盤状に加工している。底面に糸切り痕があり、整形のための擦痕が認められる。また底面の中央に穿孔の痕と考えられる窪みが認められる。

第60号住居跡（60H）（第14・16図）

〔位置〕調査区東端に位置する。

〔構造〕（平面形）方形（規模）規模は長軸5.95～6.3m×短軸約4.2mを測る。住居跡北東端で59Hと重複し切っている。（主軸方位）E—17°—N（壁高）壁はほぼ垂直に立ち上がり、床面から14cmを測る。（壁溝）なし（床）住居跡の中央部および東側は貼床による硬化面が残っている。（柱穴）確認できなかった。

〔覆土〕攪乱による影響が著しいが、土層は暗茶褐色土を基調とし、3層に分層される。

〔カマド〕住居跡北側壁面を掘り込んで構築したと考えられるが、59H・61Hと重複しているためカマド周辺の北側壁面が確認できない。そのため、カマドの詳細な規模は不明である。かろうじて、カマドの掘り込み底面およびカマド前庭部の掘り込みが確認できるのみであった。その規模はカマド底面の掘り込みが長軸約1.17m×短軸約82cm×深さ約26cmの不

整楕円形、前庭部の掘り込みが径約95cm×深さ約15cmの不整円形である。土層は暗褐色土・淡暗褐色土・褐色土を基調とし、16層に分層される。掘り込みの両脇には、カマドの両袖部を構築した粘土塊が認められた。

〔遺物出土状況〕カマドの内部から須恵器の坏・土師器の坏・布目瓦（第23図26・29・33・37）などが出土している。その他に住居跡覆土から須恵器・土師器の破片、鉄製の刀子（第24図62）が床面に全体的に分散して出土している。

〔時期〕9世紀後半～10世紀初頭

第60号住居跡出土遺物（第23図26～37、第24図62）

26～29、31、34は須恵器の坏。26はカマドより出土。4分の1欠損。法量は口径12.35cm×底径5.1cm×器高4.1cm。ロクロ成形。色調は灰色。体部の開きが大きい。整形時の体部の稜が強く、底面に糸切り痕が認められる。胎土緻密。焼成堅緻。

27は7分の1残存。法量は口径13.2cm（推定）×底径4.8cm（推定）×器高4.1cm。ロクロ成形。色調は暗灰色。体部の開きが大きい。成形時の体部の稜が強く、底面に糸切り痕が認められる。胎土緻密。焼成堅緻。

28は5分の1欠損。法量は口径12.7cm×底径5.5cm×器高4.4cm。ロクロ成形。色調は灰色。体部の開きが大きい。成形時の体部の稜がやや強く、底面に糸切り痕が認められる。胎土に1～3mmの礫を少量含む。焼成堅緻。

29はカマドより出土。4分の1残存。法量は口径13.6cm（推定）×底径5.7cm（推定）×器高4.2cm。ロクロ成形。色調は淡灰褐色。体部の開きが大きい。整形時の体部の稜がやや強く、底面に糸切り痕が認められる。胎土緻密。焼成堅緻。

30は土師器の坏。5分の2欠損。法量は口径15.2cm（推定）×底径6.3cm×器高4.6cm。ロクロ成形。色調は橙色。体部の開きが大きい。成形時の体部の稜がやや強く、底面に糸切り痕が認められる。胎土緻密。焼成良好。

31は5分の1残存。法量は口径16cm（推定）×底径不明×現存高5.5cm。ロクロ成形。色調は暗灰褐色。成形時の稜が強く認められる。胎土に1～3mmの礫を

やや多く含み、焼成堅緻。

32は須恵器の皿。5分の2欠損。法量は口径13.4cm（推定）×底径5.5cm×器高3.3cm。ロクロ成形。色調は淡灰褐色。成形時の体部内面の稜が強く、底面に糸切り痕が認められる。胎土に1～2mmの礫をやや多く含み、焼成堅緻。

33は土師器の坏。底部破片。カマドより出土。法量は口径不明×底径6.3cm×現存高2.2cm。ロクロ成形。色調は淡橙色。底面に糸切り痕が認められる。胎土緻密。焼成堅緻。

34は口縁部破片。墨書土器。法量は口径・底径不明×現存高5cm。色調は淡灰褐色。体部外面に「仲」もしくは「□中」の文字が認められるが、欠損しており詳細不明。胎土緻密。焼成堅緻。

35は須恵器の甑。底部破片。法量は現存高7.6cm。ロクロ成形。色調は淡灰白色。胎土緻密。焼成堅緻。

36は土師器の台付き甕。底部破片で台部を欠損している。法量は現存高7.9cm。胴部外面は縦方向にヘラケズリ整形、内面にはヘラで整形した際の線状の痕が認められる。胎土緻密。焼成堅緻。

37は布目瓦。カマドより出土。法量は長さ16.8cm×幅25.9cm×厚さ2.4cm。色調は灰色。表面には撚糸Lの縄目が、裏面には布目が施される。胎土は緻密で、白色粒子を含む。

第24図62は鉄製の刀子。法量は長さ10.5cm×最大幅1.9cm×最大厚1.2cm。重量16g。

第61号住居跡（61H）（第17図）

〔位置〕調査区東端に位置する。

〔構造〕（平面形）方形（規模）規模は長軸3.27～3.45m×短軸2.65～3m以上×深さ16.3～36.7cmを測る。（主軸方位）N—26°—W（壁高）壁はほぼ垂直に立ち上がり、床面から約30cmを測る。上層は重複する59Hにより削られている。（壁溝）なし（床）床面は比較的軟弱である。（柱穴）確認できなかった。

〔覆土〕土層は59Hと重複しているためか、上層部は削られ、覆土にもロームブロックを多量に含み、ボソボソした状態であった。暗褐色土・暗黄褐色土・淡暗褐色土を基調とし4層に分層される。

〔カマド〕確認できなかった。

〔遺物出土状況〕59H・60Hと重複しているためか、覆土内には土師器の甕の小片がわずかに出土しているのみである。

〔時期〕詳細不明

〔備考〕住居跡を示す明確な判断材料は認められないが、その規模や形態は住居跡の可能性が高いと思われる。

第62号住居跡（62H）（第18・19図）

〔位置〕調査区の南西寄りに位置する。

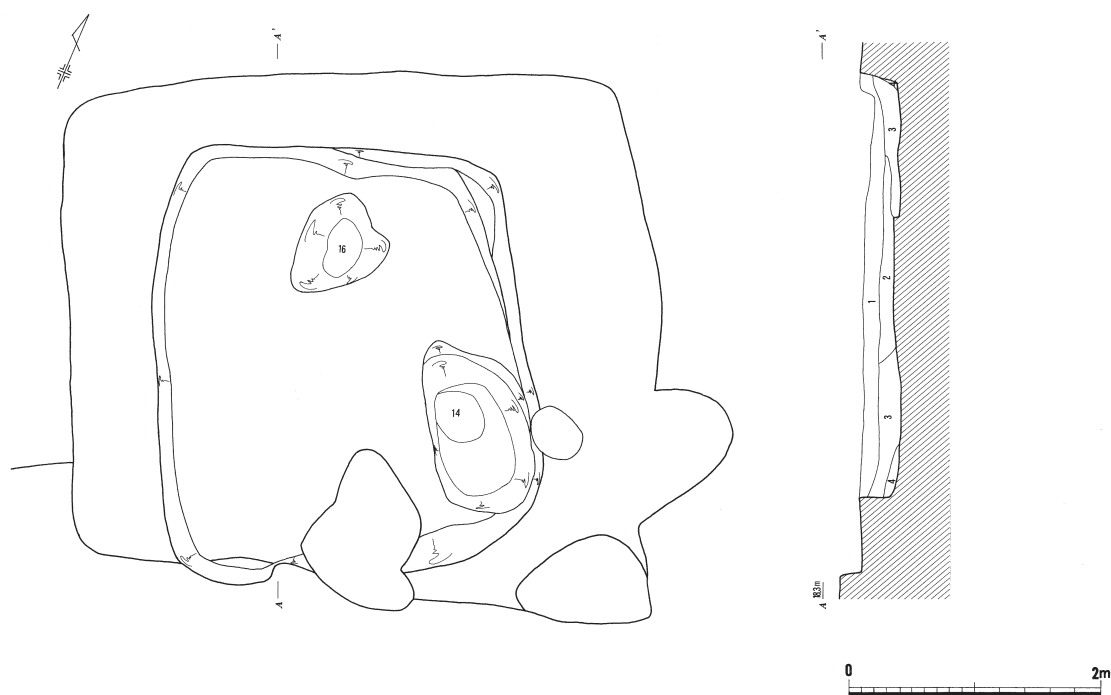
〔構造〕（平面形）方形（規模）規模は長軸約4.25m×短軸約3.75mを測る。第63号住居跡（63H）とほとんど重なる状態で重複し切っている。（主軸方位）E—28°—N（壁高）壁はほぼ垂直に立ち上がり、床面から20～25cmを測る。（壁溝）西側壁面に沿ってわずかに認められるが、他では確認できなかった。壁溝の規模は幅16～18cm、深さ4.6～5.7cmを測る。（床）遺存状況が不良であったが、住居跡中央部でところどころ貼床による硬化面が残っている。（柱穴）確認できなかった。

〔覆土〕耕作による攪乱は著しいが、土層は暗褐色土を基調とし3層に分層される。

〔カマド〕住居跡東側壁面の中央部やや南寄りを間口幅約80cm×奥行約90cmの規模で掘り込んで構築されている。カマド内部には長軸約62cm×短軸約49cm×深さ約16.9cmの不整楕円形の掘り込みを有する。土層は暗褐色土・淡暗褐色土を基調とし、9層に分層される。カマド内部底面は焼土が発達し、ほぼ全面に広がっている。また、カマドの南側脇にはローム層と白色粘土により構築したと考えられる袖部が認められた。また、62Hカマドは63Hと重複しているため、63Hの東側カマドと並ぶような形で検出されている。

〔遺物出土状況〕カマドからは内部及び前庭部で須恵器の坏、土師器の坏・甕の小片が少量出土している。住居跡の覆土からは須恵器の坏・甕、土師器の坏・甕の他に刀子と考えられる鉄製品の小片が認められる。

〔時期〕10世紀初頭



第61号住居跡 (61H : A-A')

- | | |
|---------|--|
| 1 暗褐色土 | 黒色味が強い色調を呈する。ロームブロックを多量に含む。しまり強。粘性弱。表層は59Hの貼床面として硬化している。 |
| 2 暗黄褐色土 | ロームブロックを多量に含む。しまり強。粘性弱。 |
| 3 淡暗褐色土 | ローム粒を多量に含む。しまり強。粘性弱。 |
| 4 黄褐色土 | ローム粒を多量に含む。しまり強。粘性弱。 |

第17図 第61号住居跡 (61H ; 1/60)

〔備考〕62Hと63Hは約8～9割重複しており、その新旧は土層の切り合い関係から古い順に63H⇒62Hとなる。

第62号住居跡出土遺物 (第23図38～50)

38～47は須恵器の坏。38は4分の1残存。法量は口径13cm (推定) × 底径6.3cm (推定) × 器高3.1cm。ロクロ成形。色調は橙褐色。体部の開きが大きい。内外面ともによくナデており、底面に糸切り痕が認められる。胎土に1～3mmの礫を多量に含み、焼成堅緻。

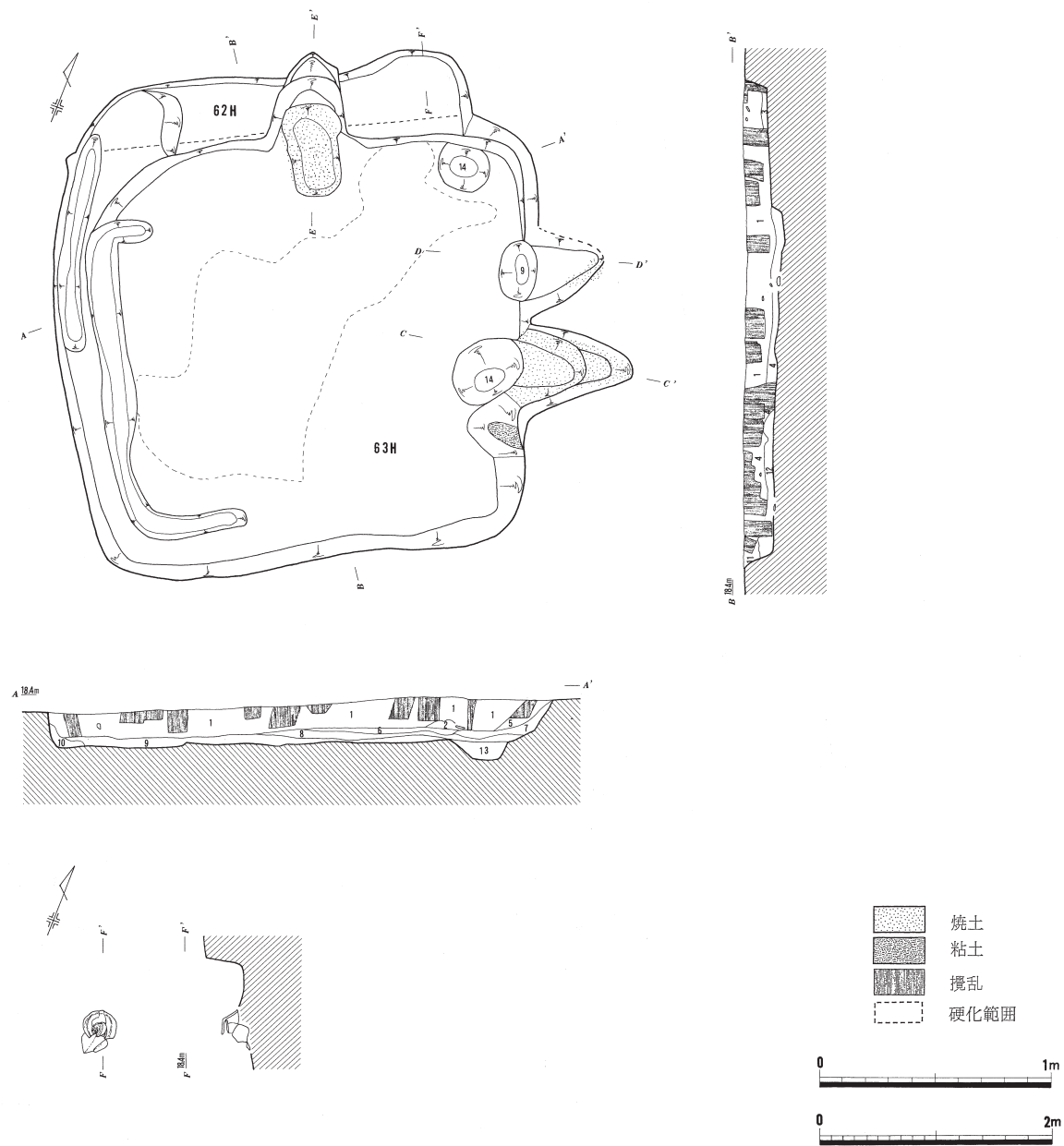
39は2分の1残存。法量は口径11.6cm (推定) × 底径5.2cm × 器高3.2cm。ロクロ成形。色調は灰褐色。体部の開きが大きく、底面に糸切り痕が認められる。胎土に1～3mmの礫を多量に含み、焼成堅緻。

40は3分の1欠損。法量は口径13.3cm (推定) × 底径6.1cm × 器高3.7cm。ロクロ成形。色調は暗橙褐色。体部の開きが大きく、底面に糸切り痕が認められる。胎土に1～5mmの礫を含み、焼成堅緻。

41は4分の1残存。法量は口径13cm (推定) × 底径5cm (推定) × 器高3.8cm。ロクロ成形。色調は暗灰色。体部の開きが大きく、底面に糸切り痕が認められる。胎土に1～2mmの礫を少量含み、焼成堅緻。

42は3分の1欠損。法量は口径14.9cm (推定) × 底径6.1cm × 器高4.9cm。ロクロ成形。色調は暗灰褐色。体部の開きが大きく、底面に糸切り痕が認められる。胎土緻密。焼成堅緻。

43は5分の1欠損。法量は口径14.7cm × 底径5.7cm × 器高4.8cm。ロクロ成形。色調は淡暗灰褐色。成形時



第 62 号・第 63 号住居跡 (62H・63H : A-A', B-B')

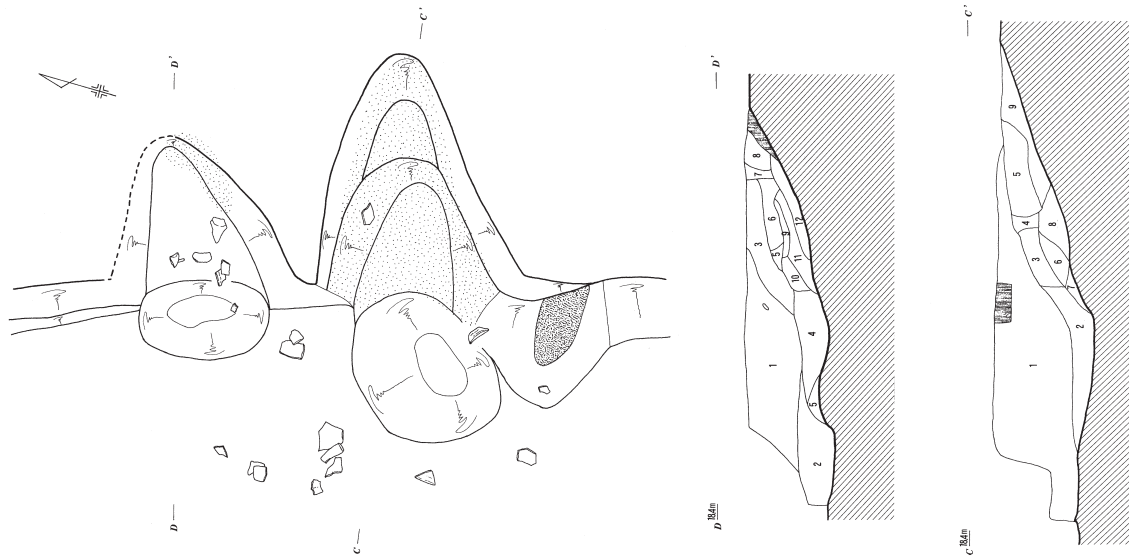
【62H】

- | | |
|---------|--|
| 1 暗褐色土 | やや赤色味がかかる色調を呈する。ローム粒をわずかに含む。焼土粒・炭化物を少量含む。しまりやや強。粘性弱。 |
| 2 赤暗褐色土 | ローム粒・炭化物をわずかに含む。焼土粒を多量に含む。しまりやや強。粘性弱。 |
| 3 暗黄褐色土 | ローム粒を多量に含む。しまり弱。粘性弱。 |
| 4 暗褐色土 | 1層よりやや暗い色調を呈する。ローム粒・炭化物をわずかに含む。焼土粒を少量含む。しまりやや強。粘性弱。 |
| 5 淡暗褐色土 | 1層よりやや明るい色調を呈する。ローム粒を少量含む。しまりやや強。粘性弱。 |
| 6 暗褐色土 | 黒色味やや強い色調を呈する。ローム粒をわずかに含む。62Hの貼床により硬化した土層。 |

【63H】

- | | |
|----------|--|
| 7 暗黄褐色土 | ローム粒をやや多く含む。しまり弱。粘性弱。 |
| 8 暗褐色土 | ローム粒・焼土粒をわずかに含む。しまりやや強。粘性弱。 |
| 9 暗褐色土 | 1層よりやや暗い色調を呈する。ローム粒を多量に含む。焼土粒をわずかに含む。しまり強。粘性弱。 |
| 10 暗黄褐色土 | ローム粒を多量に含む。しまりやや強。粘性弱。 |
| 11 暗黄褐色土 | ローム粒を多量に含む。しまり弱。粘性弱。 |
| 12 淡暗褐色土 | 4層・9層よりも明るい色調を呈する。ローム粒をやや多く含む。焼土粒を少量含む。しまりやや強。粘性弱。 |
| 13 淡暗褐色土 | ローム粒をやや多く含む。しまり強。粘性弱。 |

第18図 第62号・第63号住居跡 1 (62H・63H ; 1/60、1/30)

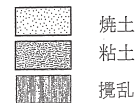


第63号住居跡東側カマド（63H：D-D'）

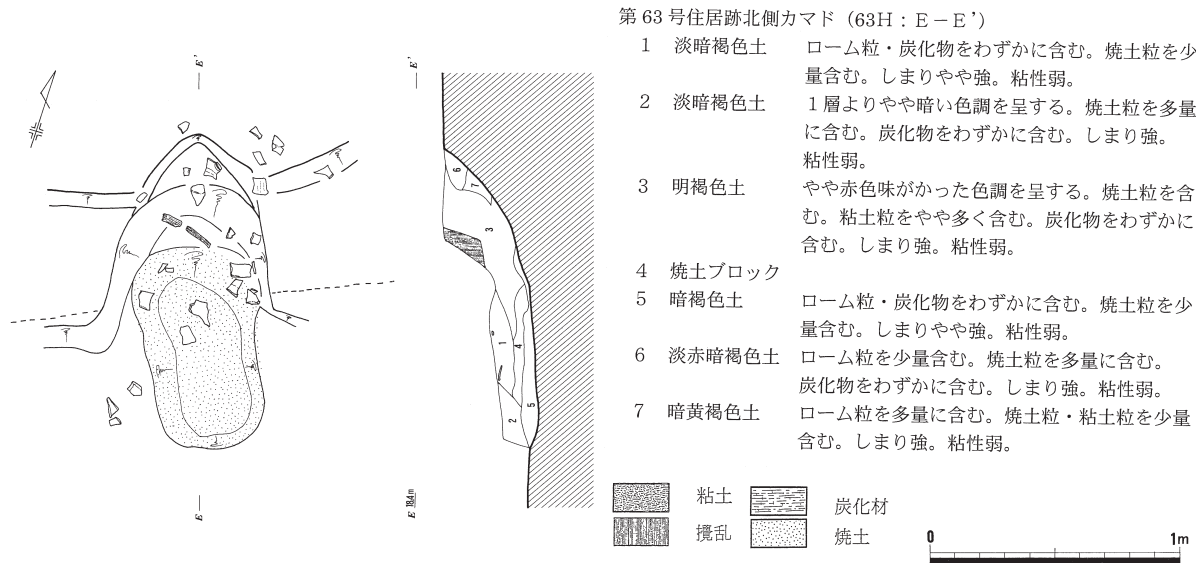
- | | |
|----------|---|
| 1 暗褐色土 | 焼土粒・炭化物をわずかに含む。しまり強。粘性弱。 |
| 2 淡暗褐色土 | やや赤色味がかかる色調を呈する。ローム粒をわずかに含む。しまりやや強。粘性弱。 |
| 3 淡暗褐色土 | ローム粒をわずかに含む。焼土粒・粘土粒を少量含む。2層よりやや暗い色調を呈するボソボソした土層。しまり強。粘性弱。 |
| 4 淡暗褐色土 | ローム粒・焼土粒を少量含む。粘土粒・炭化物をわずかに含む。しまりやや強。粘性弱。 |
| 5 淡暗褐色土 | 3層よりやや暗い色調を呈する。焼土粒を少量含む。粘土粒をわずかに含む。しまりあり。粘性弱。 |
| 6 暗黄褐色土 | 焼土粒・焼土ブロックを少量含む。粘土粒を多量に含む。カマド天井部の崩落層と考えられる。しまりやや強。粘性やや強。 |
| 7 淡暗褐色土 | 焼土粒をわずかに含む。しまり強。粘性弱。 |
| 8 白色粘土 | 焼土粒を多量に含む。しまり強。粘性弱。 |
| 9 焼土ブロック | しまり強。粘性弱。 |
| 10 白色粘土 | 焼土粒を多量に含む。しまり強。粘性やや強。カマド天井部の崩落層と考えられる。 |
| 11 暗黄褐色土 | ローム粒を多量に含む。焼土粒をわずかに含む。しまり弱。粘性弱。やや灰が混じる。 |
| 12 暗黄褐色土 | ローム粒を多量に含む。焼土粒・粘土粒をわずかに含む。しまりあり。粘性弱。 |

第62号住居跡東側カマド（62H：C-C'）

- | | |
|----------|---|
| 1 暗褐色土 | やや黒色味が強い色調を呈する。焼土粒を少量含む。粘土粒・炭化物をわずかに含む。しまり強。粘性弱。 |
| 2 暗褐色土 | 1層よりやや明るい色調を呈する。ローム粒を少量含む。焼土粒・炭化物をわずかに含む。しまり強。粘性弱。 |
| 3 白色粘土 | 褐色土が混じる。焼土粒を含む。しまり強。粘性やや強。カマド天井部崩落層と考えられる。 |
| 4 淡暗褐色土 | 焼土粒・粘土粒をわずかに含む。しまり強。粘性弱。 |
| 5 白色粘土 | 3層に類似する。焼土粒を多量に含む。炭化物を少量含む。カマド天井部崩落層と考えられる。 |
| 6 淡赤暗褐色土 | 焼土粒・粘土粒を多量に含む。しまり強。粘性弱。 |
| 7 赤暗褐色土 | 焼土粒をやや多く含む。しまりやや強。粘性弱。 |
| 8 赤暗褐色土 | 7層よりやや明るい色調を呈するボソボソした土層。焼土粒を含む。粘土粒をわずかに含む。しまりやや強。粘性弱。 |
| 9 焼土ブロック | |



第19図 第62号・第63号住居跡2（62H・63H：1/30）



第20図 第62号・第63号住居跡 3 (62H・63H : 1/30)

の体部の稜がやや強く、底面に糸切り痕が認められる。器形がやや歪んでおり、内面には一部分に灰釉がかかっている。胎土緻密。焼成堅緻。

44は4分の1残存。法量は口径15cm(推定)×底径6.2cm(推定)×器高5.15cm。ロクロ成形。色調は灰褐色。成形時の体部の稜が強く、底面に糸切り痕が認められる。胎土に1～4mmの礫をやや含み、焼成堅緻。

45は4分の1残存。法量は口径14cm(推定)×底径不明×現存高3.95cm。ロクロ成形。色調は暗白色。成形時の体部の稜は摩滅している。胎土はやや砂質状で、焼成良好。

46は4分の1残存。法量は口径16cm(推定)×底径不明×現存高5.2cm。ロクロ成形。色調は淡暗灰褐色。成形時の体部の稜がやや強い。胎土緻密。焼成堅緻。

47は高台付きの坏。5分の1残存。法量は口径14.1cm(推定)×底径6.3cm(推定)×器高3.9cm。ロクロ成形。色調は淡黄白色。胎土緻密。焼成堅緻。

48は須恵器の甕。法量は現存高14cm。内外面に灰釉が施されている。胎土緻密。焼成堅緻。

49、50は土師器の甕。49は口縁部破片。法量は口径20cm(推定)×現存高12.4cm。色調は淡橙褐色。口縁は横方向にナデ整形、胴部の上半は横方向にヘラケズリ整形を施す。胎土緻密。焼成堅緻。

50は小形の甕の口縁部破片。法量は口径10cm(推

定)×現存高5.5cm。色調は暗橙褐色。口縁部は横方向にナデ整形、胴部の上半は横方向にヘラケズリ整形を施す。胎土緻密。焼成堅緻。

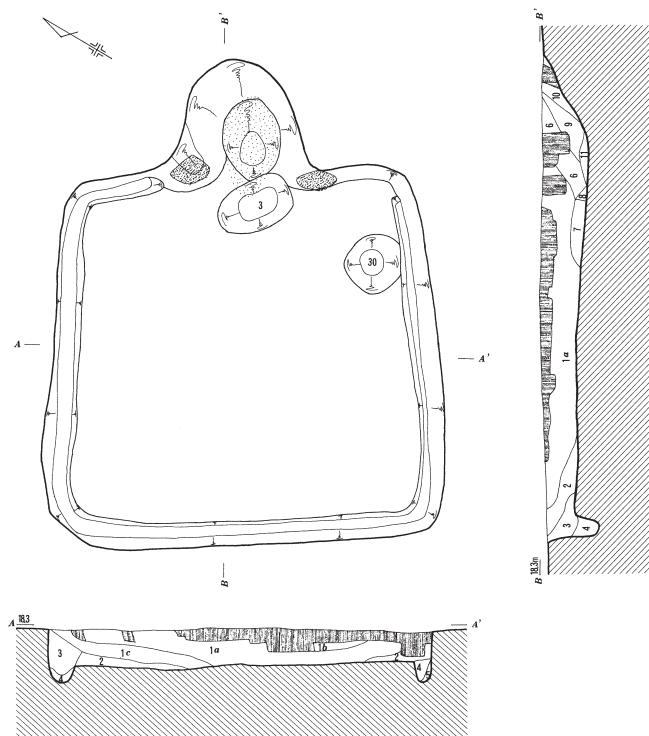
第63号住居跡 (63H) (第18～20図)

〔位置〕調査区の南西寄りに位置する。

〔構造〕(平面形) 方形 (規模) 62Hと大部分が重複しているため、詳細な規模は不明だが、長軸約3.8m×短軸3.7mを測る。(主軸方位) E—28°—N(壁高) 住居跡上層部は62Hとの重複により削平されているが、壁はほぼ垂直に立ち上がり床面から26～30cmを測る。(壁溝) 住居跡西側の壁面に沿って巡っている。その規模は幅15～30cm、深さ4～6.4cmを測る。(床) 62Hよりも掘り込みが深く、床面が一段低くなっている。遺存状況は不良であったが、住居跡中央部に南—北方向に細長く貼床による硬化面が残っている。(柱穴) 確認できなかった。

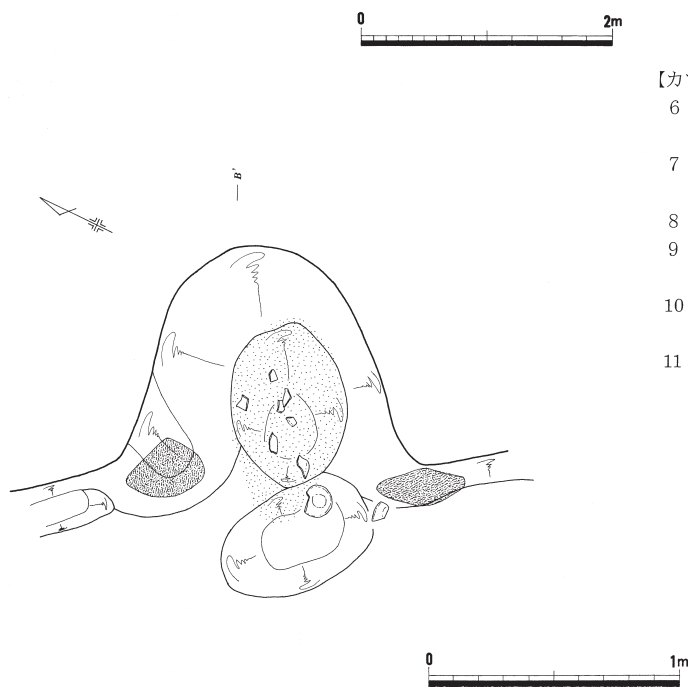
〔覆土〕上層部は62Hにより削平されているが、土層は暗褐色土・淡暗褐色土・暗黄褐色土を基調とし、9層に分層される。

〔カマド〕住居跡の北側と東側に2か所認められる。(北側カマド) 北側壁面中央部を間口幅約74cm×奥行約72cmの規模で掘り込んで構築されている。カマド



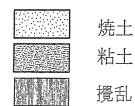
第75号住居跡（75H：A-A'、B-B'）

- | | |
|---------|---|
| 1a 暗褐色土 | 黒色味が強い色調を呈する。ローム粒を少量含む。しまりやや強。粘性弱。 |
| 1b 暗褐色土 | 1a層よりも黒色味が強い色調を呈する。ロームブロックを少量含む。しまりやや強。粘性弱。 |
| 1c 暗褐色土 | 1a層よりやや明るい色調を呈する。ローム粒を少量含む。しまり弱。粘性弱。 |
| 2 淡暗褐色土 | ローム粒を含む。しまりあり。粘性弱。 |
| 3 暗褐色土 | 1a層よりやや明るい色調を呈する。しまりあり。粘性弱。 |
| 4 暗黄褐色土 | ローム粒を多量に含む。しまりやや強。粘性弱。 |
| 5 黄褐色土 | ロームブロックを含む。しまり強。粘性弱。 |



【カマド】

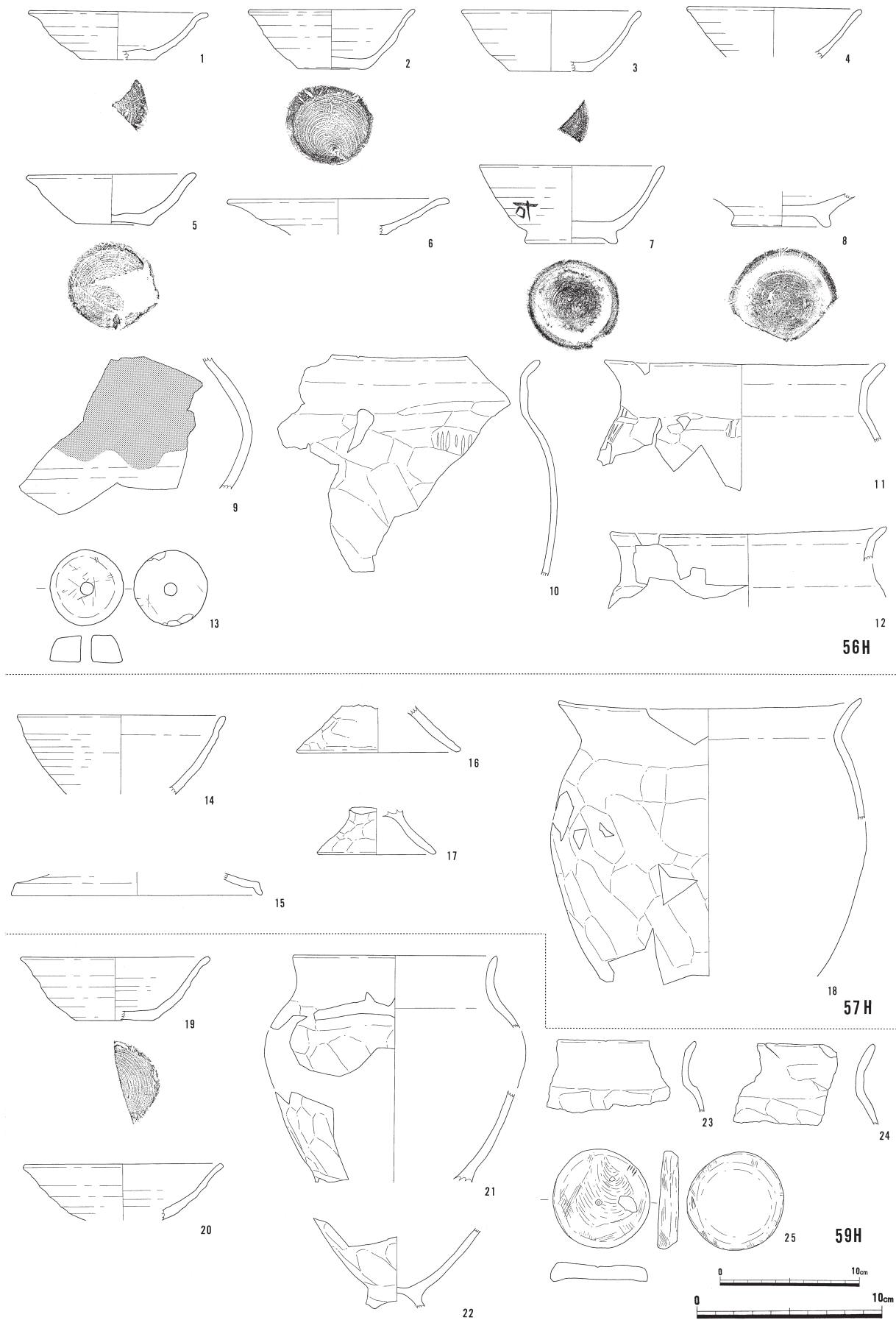
- | | |
|-----------|---------------------------------|
| 6 黒褐色土 | 焼土粒をわずかに含む。しまりあり。粘性弱。 |
| 7 黒褐色土 | ローム粒・粘土粒を少量含む。しまりやや強。粘性弱。 |
| 8 ロームブロック | |
| 9 黒褐色土 | 焼土粒を少量含む。粘土粒をわずかに含む。しまりやや強。粘性弱。 |
| 10 赤暗褐色土 | 焼土粒を多量に含む。炭化物を少量含む。しまりやや強。粘性弱。 |
| 11 赤暗褐色土 | 焼土ブロックを含む。しまりあり。粘性弱。 |



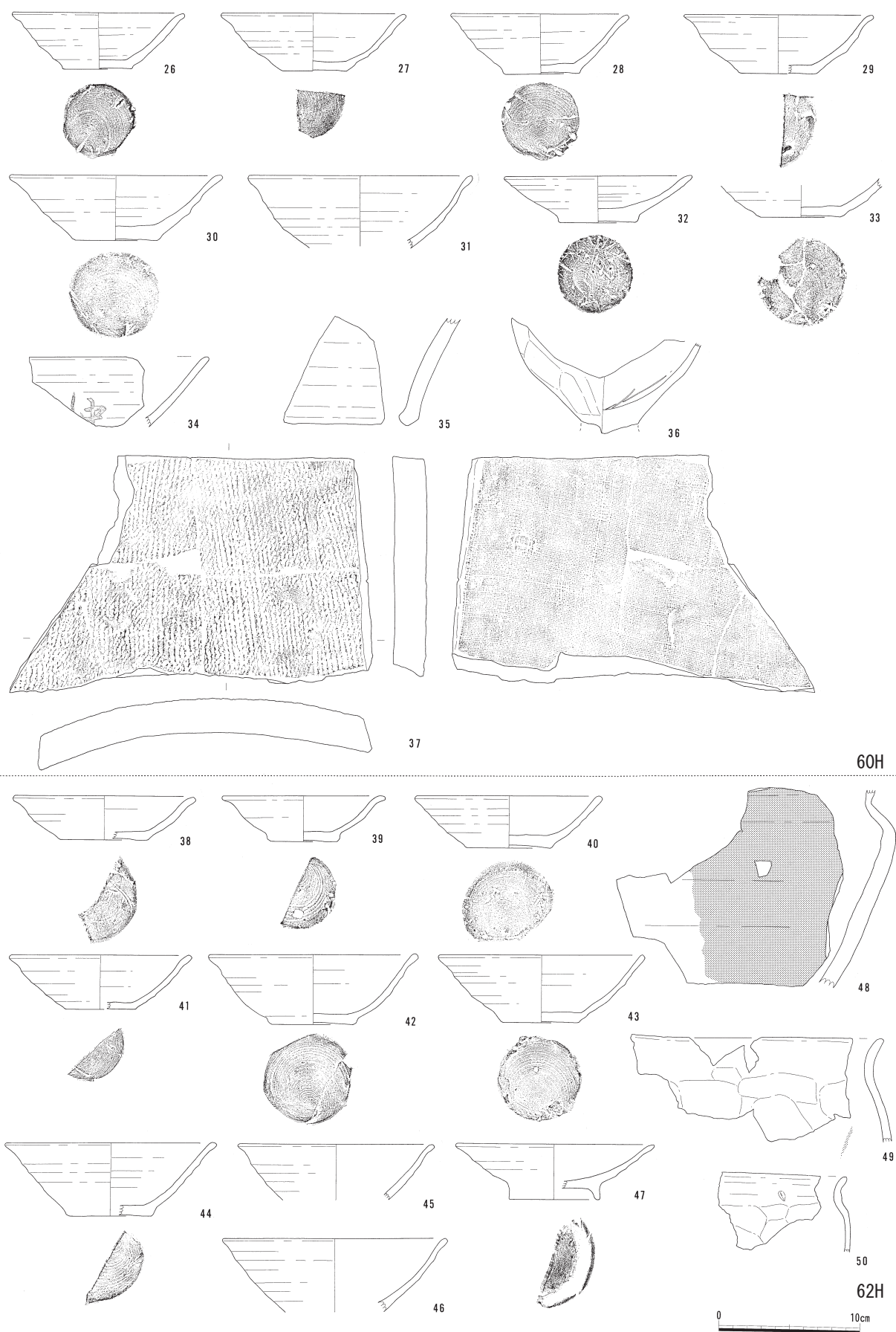
第21図 第75号住居跡（75H：1/60、1/30）

内部には長軸約80cm×短軸約45cm×深さ約6.5cmの不整楕円形の掘り込みを有する。土層は上層部が62Hにより削平されているが、下層は淡暗褐色土・明褐色土・暗褐色土を基調とし7層に分層される。

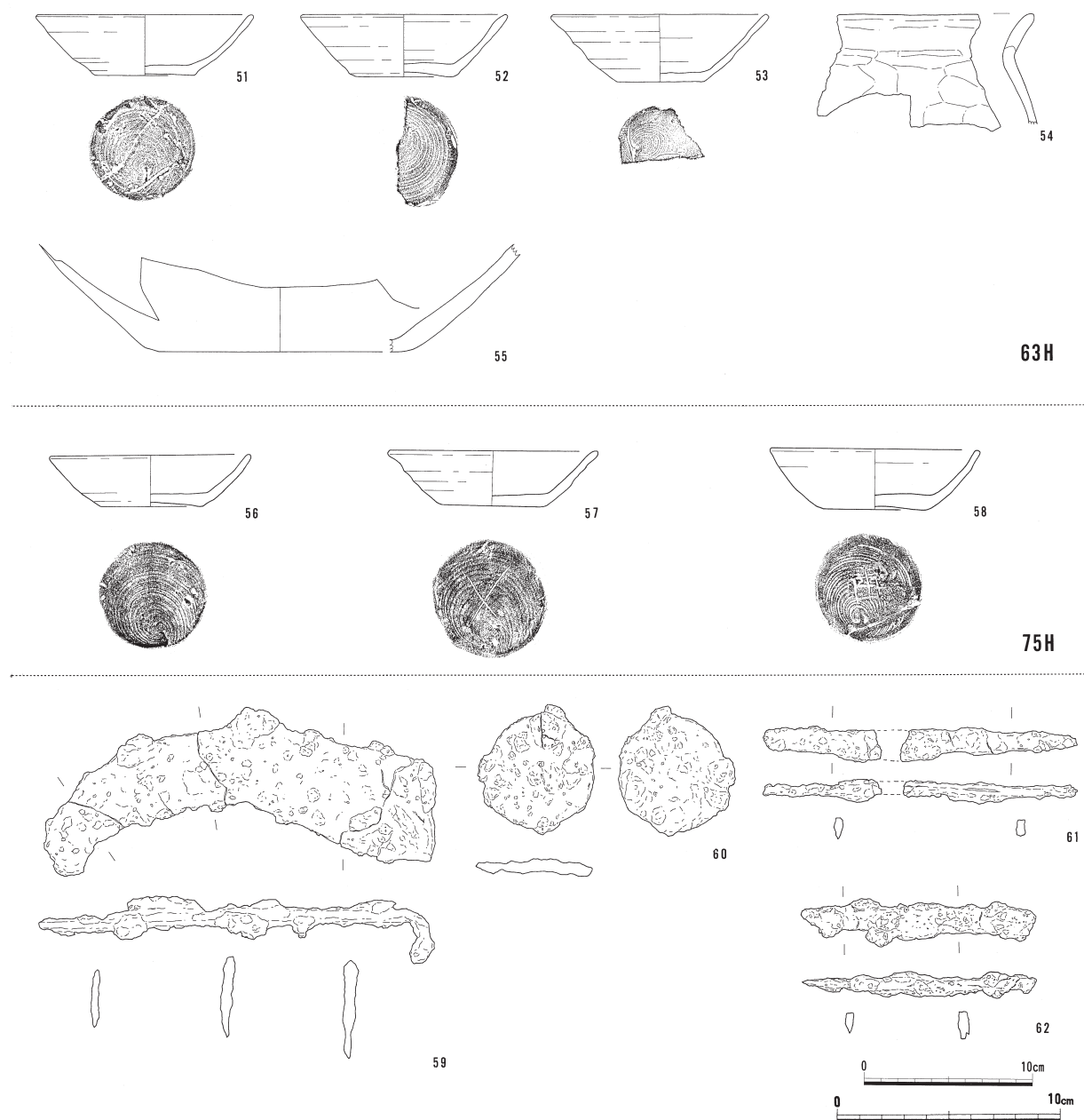
カマド底面は焼土がよく発達し、堆積している。遺存状況は不良で、袖部も削平されて残っていない。
（東側カマド）東側壁面の中央部を間口幅約72cm×奥行約56cmの規模で掘り込んで構築されている。カマ



第22図 東台遺跡第35地点出土遺物 1 (1/4、1/3)



第23図 東台遺跡第35地点出土遺物 2 (1/4)



第24図 東台遺跡第35地点出土遺物 3 (1/4、1/3)

ド内部には長軸約50cm×短軸約32cm×深さ約10.4cmの楕円形の掘り込みを有する。土層は暗褐色土・淡暗褐色土・暗黄褐色土を基調とし12層に分層される。カマド奥部に焼土が発達し厚く堆積している。遺存状況不良で、カマドの天井部崩落層は認められるが、袖部は削られて残っていなかった。

[遺物出土状況] 東側カマドでは内部から須恵器の坏、土師器の坏の小片が少量認められる。北側カマ

ドでは内部および前庭部から須恵器の坏・甕、土師器の甕が少量出土している。住居跡の覆土からは須恵器の坏・甕、土師器の坏・甕の他に鉄製品の小片などが認められる。

[時期] 9世紀後半～10世紀初頭

第63号住居跡出土遺物 (第24図51～55)

51～53は須恵器の坏。51は2分の1欠損。法量は口

径13cm（推定）×底径6cm×器高3.6cm。ロクロ成形。色調は淡橙褐色。体部の開きが大きい。成形時の稜は弱く、底面に糸切り痕が認められる。胎土に1～2mmの礫をやや多く含み砂質状を呈する。在地系か。

52は2分の1欠損。法量は口径12.4cm（推定）×底径6cm（推定）×器高3.7cm。ロクロ成形。色調は暗白色。成形時の体部の稜は弱く、底面に糸切り痕が認められる。胎土に1～3mmの礫をやや多く含み砂質状を呈する。焼成堅緻。

53は2分の1欠損。法量は口径13cm（推定）×底径5.3cm（推定）×器高4cm。ロクロ成形。色調は暗灰色。体部の開きが大きい。整形時の体部の稜がやや強く、底面に糸切り痕が認められる。胎土に1～3mmの礫をやや含み、焼成堅緻。

54は土師器の甕。口縁部破片。色調は淡褐色。口縁は横方向にナデ整形、胴部の上半は横方向にヘラケズリ整形を施す。胎土は緻密だが砂質状を呈し、器厚も厚い造形である。在地系か。焼成良好。

55は須恵器の甕。底部破片。カマドより出土。法量は底径16cm×現存高6.4cm。色調は灰褐色。体部外面にナデ整形を丁寧に施している。胎土に1～4mmの礫を多量に含み、焼成堅緻。

第75号住居跡（75H）（第21図）

〔位置〕調査区南端に位置する。

〔構造〕（平面形）方形（規模）規模は長軸約3.15m×短軸約2.94mを測る。（主軸方位）E—32°—N（壁高）壁はほぼ垂直に立ち上がり、床面から23～28cmを測る。（壁溝）住居跡東側のカマド周辺を除いて、壁面に沿って巡っている。壁溝の規模は幅8～18cm、深さ6.3～20cmを測る。（床）床面は比較的軟弱である。（柱穴）確認できなかった。

〔覆土〕土層は暗褐色土を基調とし7層に分層される。

〔カマド〕住居跡東側壁面の中央部を間口幅約1.2m×奥行約92cmの規模で掘り込んで構築されている。カマド内部には長軸約62cm×短軸約40cm×深さ約3cmの楕円形の掘り込みを有する。土層は黒褐色土・赤暗褐色土を基調とし6層に分層される。カマド両脇の袖部にはカマドを構築したと考えられる白色粘土が認められる。

〔遺物出土状況〕カマドの内部から完形品に近い須恵器の坏が2点（第24図57・58）、土師器の甕小片がわずかに出土している。

〔時期〕9世紀中頃～後半

第75号住居跡出土遺物（第24図56～58）

56～58は須恵器の杯。56は完形品。法量は口径12cm×底径6cm×器高3.1cm。ロクロ成形。色調は灰褐色。胎土に1～3mmの小礫を少量含み、底面に糸切り痕が確認できる。成形時の体部の稜は弱く、焼成堅緻。

57はカマドより出土。口縁部の一部を欠損。法量は口径12.6cm×底径6.5cm×器高3.4cm。ロクロ成形。色調は灰色。胎土に1～5mmの礫をやや多く含み、底面に糸切り痕とバツ字状の刻みを有する。成形時の体部の稜が強く認められる。

58はカマドより出土。刻書土器。法量は口径約12.6cm（推定）×底径5.9cm×器高3.6cm。ロクロ成形。色調は淡黄褐色。胎土に1mmの礫を少量含み、やや砂質状を呈する。底面に糸切り痕があり、中央部に「田」または「由」の文字が刻まれている。

第4節 平安時代以降の遺構と遺物

1. 溝跡

第1号溝跡（1M）（第25図）

〔位置〕調査区中央部を東—西方向に奔るが、途中でやや‘く’の字状に緩やかに湾曲しながら向きを変えている。

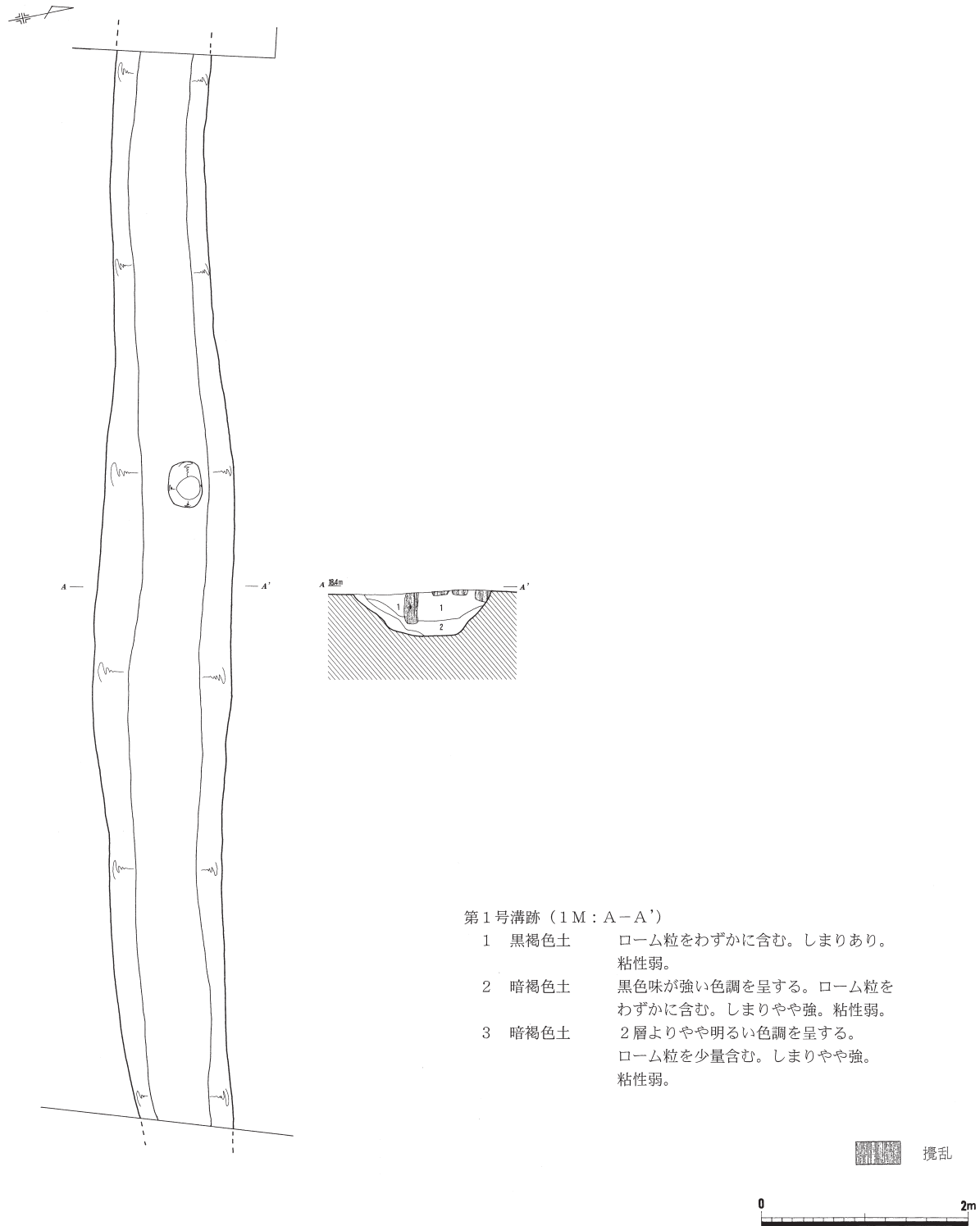
〔構造〕調査区内で検出されたかぎりでは、間口幅90～134cm×底面幅50～68cm×深さ26.4～42.3cmを測る。断面形は逆台形状を呈し、しっかりと掘り込んでいる。

〔覆土〕黒褐色土・暗褐色土を基調とし3層に分層される。

〔遺物出土状況〕覆土から須恵器の坏の小片、土師器の甕の小片、陶磁器片がわずかに出土しているのみである。

〔時期〕詳細不明

〔備考〕隣接する第2地点で確認された第1号溝跡の延長と考えられる。



第25図 第1号溝跡（1M；1/60）

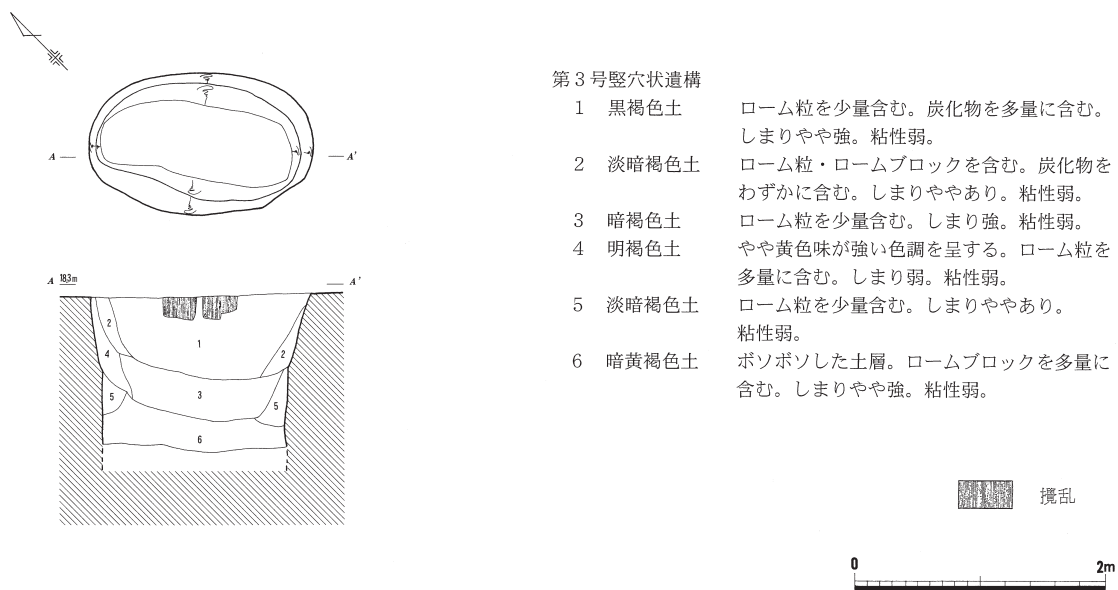
2. 竪穴状遺構

第3号竪穴状遺構（第26図）

〔位置〕 調査区中央部のやや東寄りに位置する。

〔構造〕 規模は長軸約1.75m×短軸約1.1m。深さは約

1.2m以上を測り、ボソボソした土層でそこからさらに約90cm深くなると考えられる。平面形は楕円形で、断面形は間口がやや広がり、途中で垂直に落ちていく漏斗状を呈し、しっかりと掘り込んでいる。



第26図 第3号竪穴状遺構（1/60）

〔覆土〕 確認できた範囲では、黒褐色土・暗褐色土・暗黄褐色土を基調とし6層に分層される。

〔遺物出土状況〕 出土遺物なし

〔時期〕 詳細不明

〔備考〕 その形状から陥し穴の可能性も考えられるが、出土遺物もないことから詳細な時期の判断は困難であった。土層の状態から比較的新しいとも考えられる。

第3章 宿（多門氏館跡）遺跡第7地点

第1節 遺跡の概要

1. 遺跡の立地と調査地点の概要

宿（多門氏館跡）遺跡は、市域中央部を西－東方向へ流れる新河岸川支流の江川を南側に臨む武蔵野台地の鶴瀬支台に立地している。地形的には江川が開析した武蔵野台地を刻む支谷から沖積低地へと変わっていく境目に位置している。

遺跡は、北・東・南の三方を沖積低地に囲まれ、低地に半島状に突き出した微高地上に広がる。標高は7～10mで、周囲の沖積低地との比高差は1～3mを測る。

宿遺跡は遺跡名が示すとおり、近世初頭にこの辺りを知行とした「多門氏」の館跡と伝えられている。これまでの調査で、館跡を巡る二重の堀や外郭、建物跡など館跡の存在を示す多数の遺構が確認されている。また、旧石器時代や縄文時代早期の遺物等も確認されたことから、近世の館跡を含めた複合遺跡であることが判明している。地形的に半島状に突き出た場所に立

地する関係遺跡の周辺には、小規模な谷を挟んだ北西側に縄文時代早期・中近世の複合遺跡である折戸遺跡、南西側の台地上に縄文時代草創期～中期・平安時代・戦国時代の複合遺跡である殿山遺跡、東側に旧石器時代・縄文時代前期・古墳～中近世の複合遺跡である黒貝戸遺跡が位置している。

今回調査を行った第7地点は、遺跡の南側に位置し、遺跡がのる微高地から南側の沖積低地に向かって緩やかに傾斜する微高地際にある。周辺では調査した場所がなく、遺構の分布状態は全く予想がつかない地域であった。

2. 発掘調査の経過

第7地点は個人住宅の建設に伴い、平成27年12月14日に試掘調査を実施した。面積190.95㎡。試掘調査は調査区にグリッドを設定し、人力により表土を除去した後に遺構確認を行った。その結果、地表下30cmで平安時代住居跡1軒が確認された。

事業主と協議したところ、工事の掘削により遺構に影響が及ぶと判断し、記録保存のための発掘調査を実施することとなった。

本調査は平成27年12月15日～平成27年12月16日に実施した。

12月15日—本調査開始。

第1号住居跡（1H）精査開始。

1Hセクション図の作成。

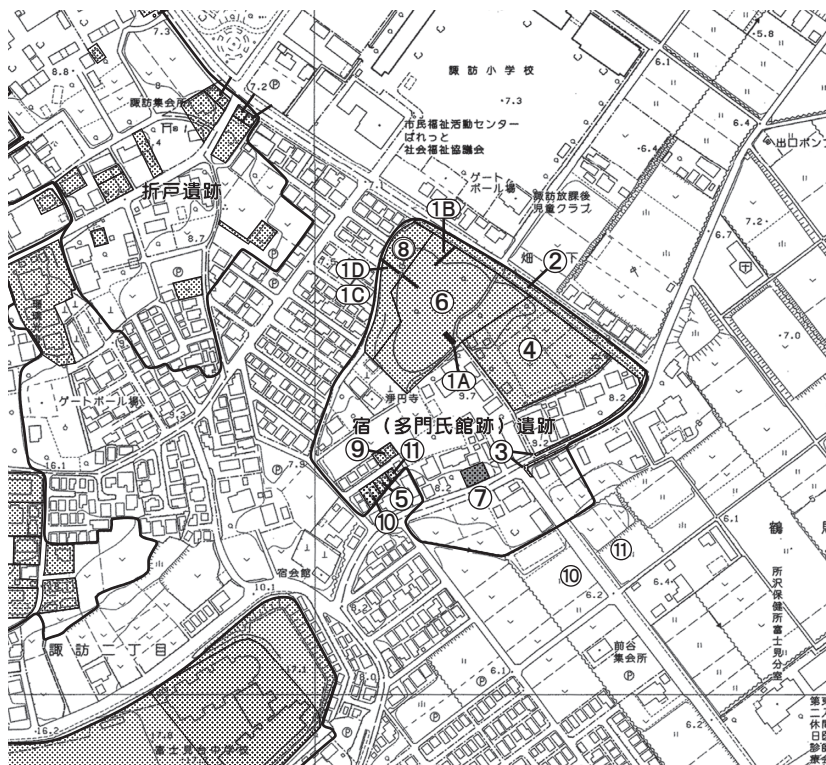
遺物取上げ作業実施。

12月16日—1Hカマド精査開始。

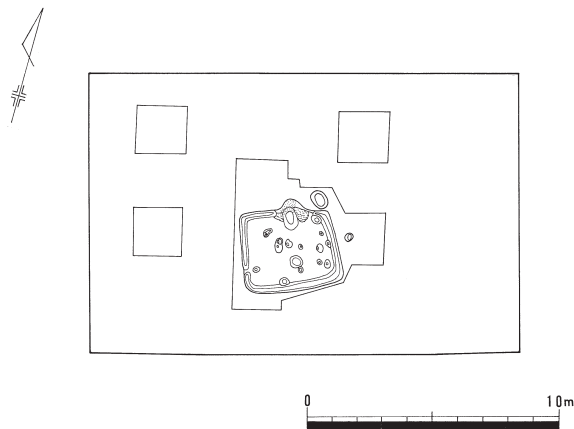
1H平面図作成。

埋戻し作業実施。

本調査終了。



第27図 宿遺跡第7地点（1/5,000）



第28図 宿遺跡第7地点遺構配置図（1/300）

第2節 平安時代の遺構と遺物

1. 住居跡

第1号住居跡（1H）（第29図）

〔位置〕 調査区中央部に位置する。

〔構造〕（平面形）方形（規模）規模は長軸約3.85m×短軸2.9～3.2m×深さ12～17cmを測り、主軸である北西—南東側の軸がやや狭く、横に長い形状を呈する。（主軸方位）N—22°—W（壁高）住居跡の上層は削平されているが、確認できる範囲では壁は比較的急な角度で立ち上がり、床面から8～17cmを測る。（壁溝）北側に設置されているカマド部分を除いて壁に沿ってほぼ全周している。壁溝の規模は幅21～33cm、深さ7～20.8cmを測る。（床）ほぼ全面に貼床による硬化面が残る。（柱穴）床面には近世以降と考えられるピットが多数確認できたが、支柱穴と考えられる掘り込みは認められなかった。

〔覆土〕 黒褐色土・暗茶褐色土を基調とし7層に分層される。

〔カマド〕 住居跡北側壁面の中央部に間口幅約1.1m×奥行約52cmの規模で掘り込んで構築されている。カマド内部には長軸約88cm×短軸約56cm×深さ約27.1cmの不整楕円形の掘り込みを有する。カマドは上層部が攪乱の影響を受けており遺存状況が不良であるが、かろうじて両脇の袖部分にカマドを構築していた白色粘土塊が残存していた。カマドの土層は

上層部は攪乱により不明だが、淡暗褐色土・暗褐色土・赤暗褐色土・淡暗灰褐色土を基調として10層に分層される。下層部に焼土を多量に含んだ層が厚く堆積している状況が認められた。

〔遺物出土状況〕 カマド内部からは須恵器の坏や土師器の甕の小片が少量出土しているのみである。また、覆土から須恵器の坏や蓋、土師器の甕の小片などが出土している。他に住居跡覆土より縄文時代の打製石斧（第30図7）が認められる。

〔時期〕 8世紀後半

第1号住居跡出土遺物（第30図）

1～3は須恵器の坏。1は4分の1欠損。法量は口径12.8cm×底径6cm×器高3.6cm。ロクロ成形。色調は灰褐色。底面を糸切り後、底面周縁部をへら整形している。胎土に1～3mmの礫を少量含む。体部外面の稜は弱い。内面は明瞭に認められる。

2は4分の1欠損。法量は口径12.8cm×底径6cm×器高3.7cm。ロクロ成形。色調は灰白色。底面を糸切り後、底面周縁部をへら整形している。底面に十字状に沈線が刻まれている。胎土に1～2mmの礫を少量含む。体部内外面の稜は弱い。

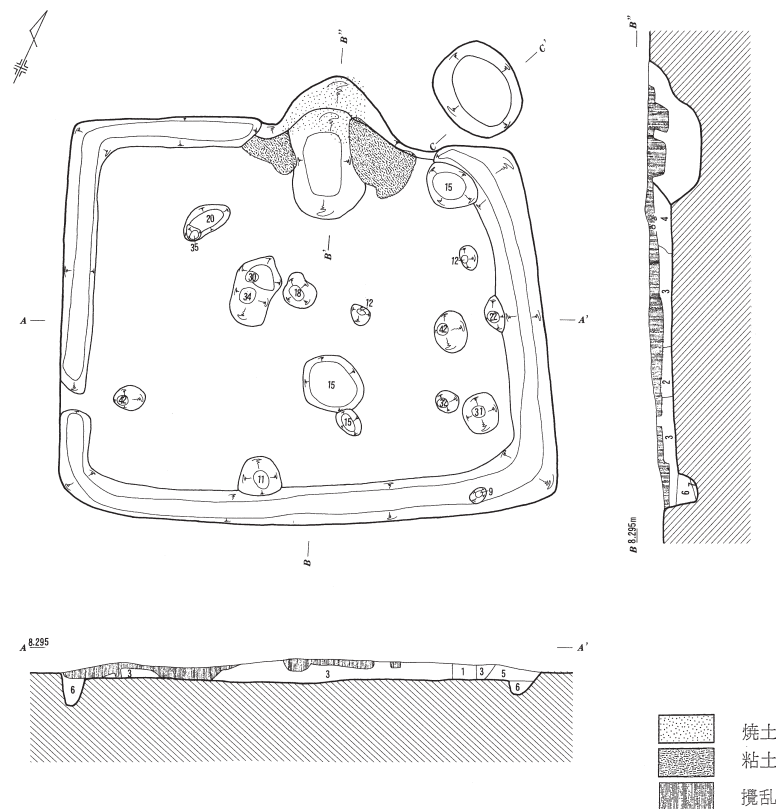
3は底部破片。法量は底径6.2cm×現存高2cm。ロクロ成形。色調は灰褐色。底面を糸切り後、底面周縁部をわずかにへら整形している。胎土に1～4mmの礫をやや多く含む。

4は須恵器の坏蓋。頂部周辺のみ残存。法量は現存高2.8cm。ロクロ成形。色調は灰白色。胎土に1～2mmの礫を少量含む。

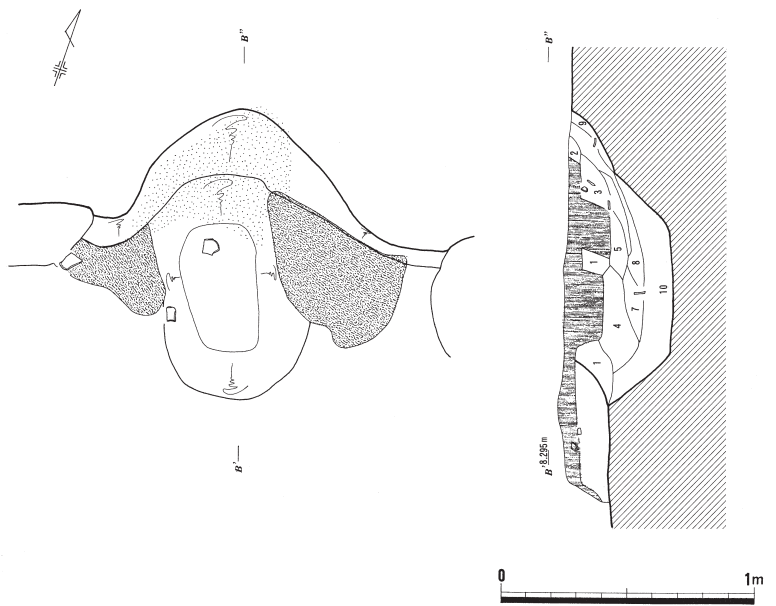
5は土師器の坏。口縁部破片。ロクロ成形。色調は外面が暗橙色、内面が黒色を呈する。内面に漆を施し、よくナデ整形を施している。

6は土師器の甕。口縁部破片。色調は暗橙褐色。口縁部はナデ整形を施している。胎土緻密。焼成堅緻。

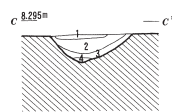
7は短冊形の打製石斧。法量は長さ12.6cm×幅9cm×厚さ5.3cm。重量745g。石材は安山岩で、一部原礫面を残す。1Hへの流れ込みと考えられる。



- 第1号住居跡（1H：A-A'、B-B'）
- 1 黒褐色土 ローム粒を少量含む。しまり強。粘性弱。他の遺構の覆土と考えられる。
 - 2 褐色土 やや黒色味が強い色調を呈するボロボロした土層。しまり弱。粘性弱。他の遺構の覆土と考えられる。
 - 3 黒褐色土 1層より黒色味が強い色調を呈する。ローム粒・焼土粒をわずかに含む。しまり強。粘性弱。
 - 4 暗茶褐色土 焼土粒・粘土粒をわずかに含む。しまり強。粘性弱。
 - 5 暗褐色土 ローム粒を少量含む。しまりあり。粘性弱。
 - 6 淡暗褐色土 やや黄色味がかった色調を呈する。ローム粒を少量含む。しまり強。粘性弱。
 - 7 淡暗褐色土 ローム粒・ロームブロックを多量に含む。しまりあり。粘性弱。

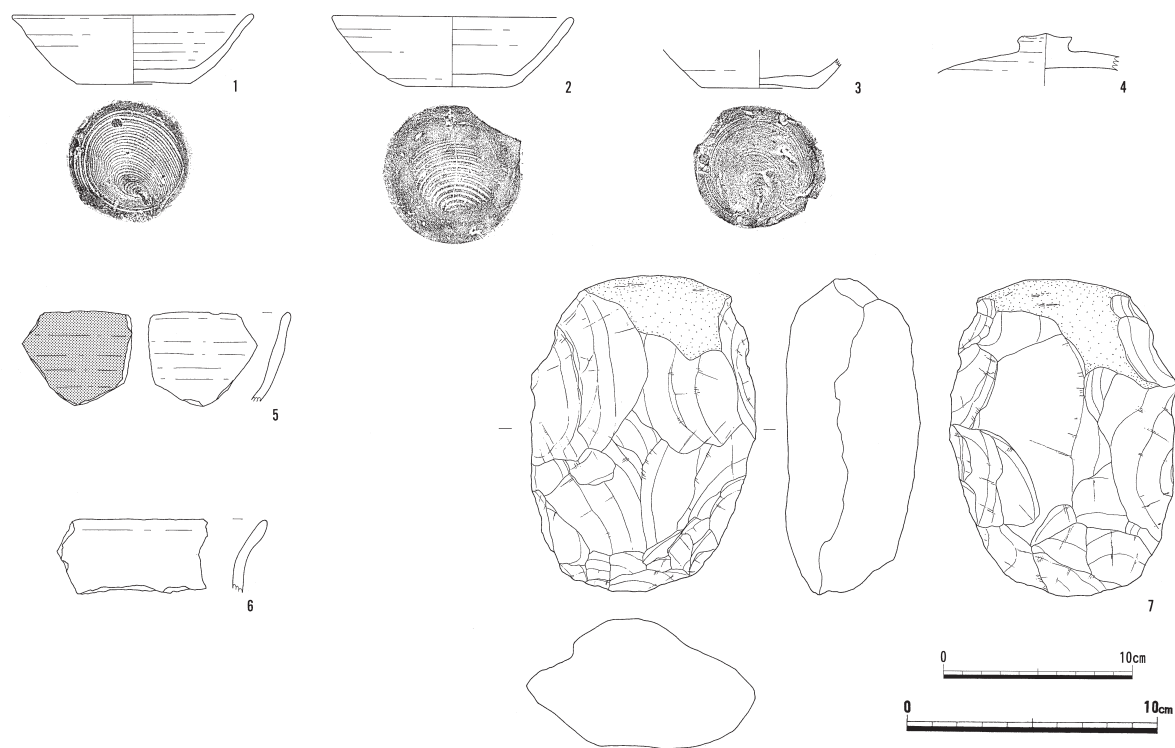


- 第1号住居跡カマド（1H：B'-B''）
- 1 淡暗褐色土 ローム粒・焼土粒をわずかに含む。粘土粒をやや多く含む。炭化物を少量含む。しまり強。粘性やや強。
 - 2 赤暗灰色粘土 焼土粒をやや多く含む。しまり強。粘性強。
 - 3 赤暗褐色土 焼土粒をやや多く含む。炭化物を少量含む。しまり強。粘性弱。
 - 4 暗褐色土 ローム粒をわずかに含む。焼土粒を多量に含む。炭化物を少量含む。しまり強。粘性弱。
 - 5 焼土 炭化物をわずかに含む。しまり強。粘性弱。
 - 6 暗黄褐色土 ローム粒を多量に含む。焼土粒をわずかに含む。しまりあり。粘性弱。
 - 7 淡暗褐色土 ローム粒・炭化物を少量含む。焼土粒をやや多く含む。粘土粒をわずかに含む。しまり強。粘性強。
 - 8 淡赤暗褐色土 赤色味が強い色調を呈する。ローム粒・炭化物を少量含む。焼土粒を多量に含む。しまり強。粘性弱。
 - 9 焼土 しまり強。粘性弱。
 - 10 淡暗灰褐色土 ローム粒・焼土粒を少量含む。粘土粒をやや多く含む。しまり強。粘性弱。



- 第1945号土坑（1945HD：A-A'）
- 1 赤色粘土 粘土が被熱して固まった土層。しまり強。粘性弱。意図的に固めたと考えられる。
 - 2 白色粘土 しまり強。粘性強。
 - 3 赤色粘土 1層と類似した土層。しまり強。粘性弱。
 - 4 暗褐色土 ローム粒を少量含む。しまりやや強。粘性弱。

第29図 第1号住居跡（1H：1/60、1/30）



第30図 第1号住居跡出土遺物（1/4、1/3）

第3節 平安時代以降の遺構と遺物

1. 土坑

第1945号土坑（1945HD）（第29図）

〔位置〕 調査区中央部、1Hの北東側に位置する。

〔構造〕 平面形は楕円形を呈し、その規模は長軸約75cm×短軸約64cm×深さ約18.1cmを測る。掘り込みの内部に粘土を充填し、その表面は被熱して硬化している。

〔覆土〕 白色粘土を基調とし4層に分層される。掘り込み全面に粘土を詰めている状態で、粘土も掘り込み下層と上層部にあたる粘土は意図的に焼き固めているように被熱した粘土が厚く堆積している。

〔遺物出土状況〕 なし

〔時期〕 詳細不明

〔備考〕 覆土の状況から少なくとも2回に分けて粘土を意図的に焼いて硬化させており、柱の基礎として利用したものと考えられる。

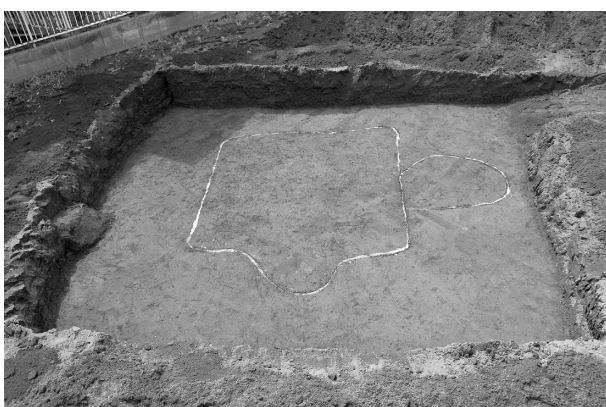
写真図版 1 東台遺跡第35地点 1



1区遺構プラン



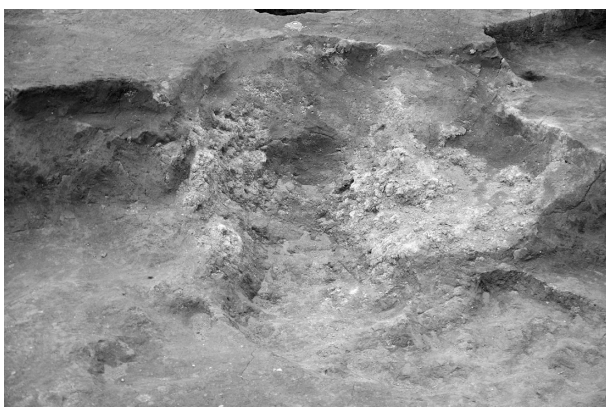
2区遺構プラン



3区遺構プラン



第56号住居跡 (56H)



第56号住居跡カマド



第56号住居跡カマドセクション



第56号住居跡遺物出土状況 1

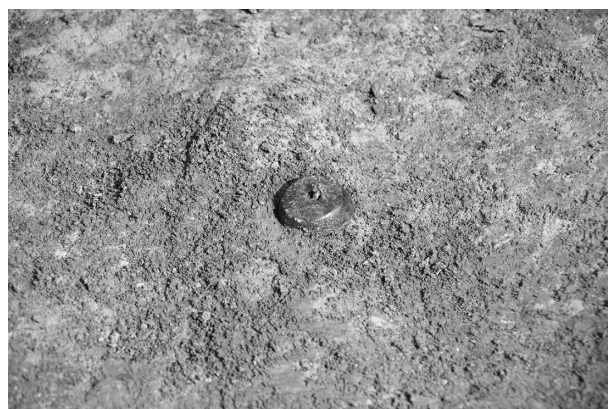


第56号住居跡遺物出土状況 2

写真図版 2 東台遺跡第35地点 2



第56号住居跡遺物出土状況 3



第56号住居跡遺物出土状況 4



第57号住居跡 (57H)



第57号住居跡カマド



第57号住居跡カマドセクション



第57号住居跡遺物出土状況



第56・57号住居跡



第58号住居跡 (58H)

写真図版 3 東台遺跡第35地点 3



第58号住居跡カマド



第58号住居跡カマドセクション



第58号住居跡カマド遺物出土状況



第59・60号住居跡 (59・60H)



第59号住居跡カマド



第59号住居跡カマドセクション



第59号住居跡カマド遺物出土状況



第60号住居跡カマド

写真図版 4 東台遺跡第35地点 4



第60号住居跡カマドセクション



第60号住居跡遺物出土状況



第61号住居跡 (61H)



第61号住居跡セクション



第62・63号住居跡 (62・63H)



第62・63号住居跡東側カマド



第62号住居跡カマドセクション



第63号住居跡東側カマドセクション

写真図版 5 東台遺跡第35地点 5



第62・63号住居跡東側カマド遺物出土状況



第63号住居跡北側カマド



第63号住居跡北側カマドセクション



第62・63号住居跡遺物出土状況



第62号住居跡遺物出土状況 1



第62号住居跡遺物出土状況 2



第62号住居跡遺物出土状況 3



第63号住居跡遺物出土状況

写真図版 6 東台遺跡第35地点 6



第75号住居跡 (75H)



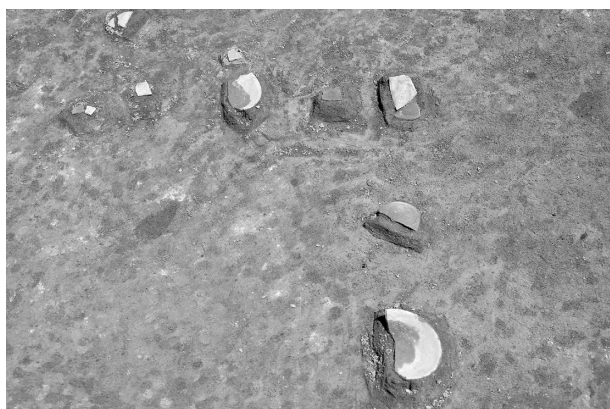
第75号住居跡カマド



第75号住居跡カマドセクション



第75号住居跡カマド遺物出土状況



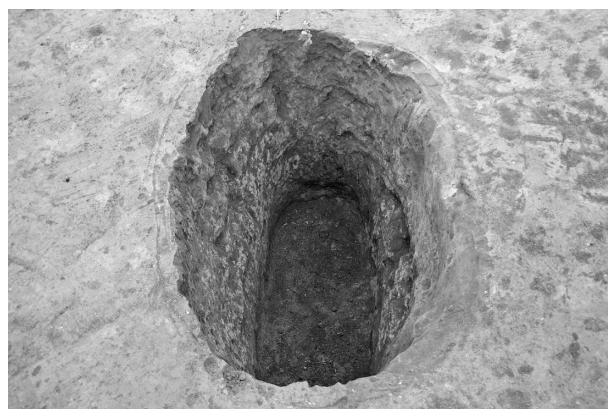
第75号住居跡遺物出土状況



第1号溝跡 (1M)



第1号溝跡セクション



第3号竪穴状遺構

写真図版 7 東台遺跡第35地点 7



1区全景 1



1区全景 2



2区全景



3区全景

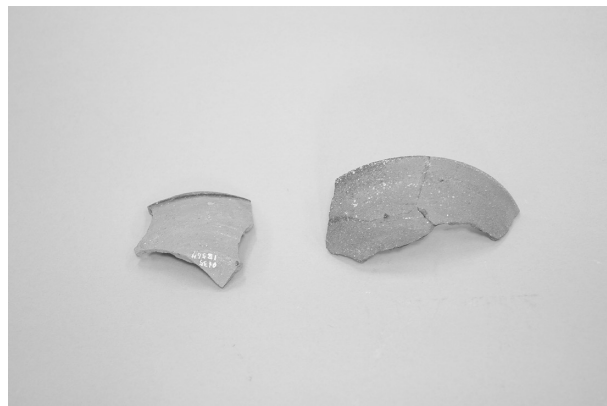


1～3区全景

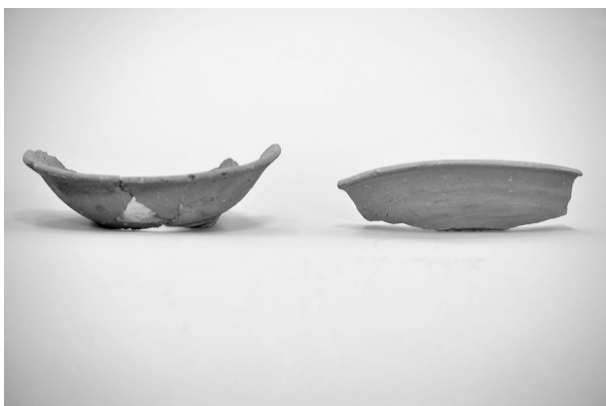
写真図版 8 東台遺跡第35地点 8



56H出土遺物（1、2）



56H出土遺物（3、4）



56H出土遺物（5、6）



56H出土遺物（7、8）



56H出土墨書土器（7）



56H出土遺物（9、10）



56H出土遺物（11、12）



56H出土遺物（13）

写真図版 9 東台遺跡第35地点 9



57H出土遺物 (14、15)



57H出土遺物 (16、17)



57H出土遺物 (18)



59H出土遺物 (19、20)



59H出土遺物 (21、22)



59H出土遺物 (23、24)



59H出土遺物 (25)

写真図版10 東台遺跡第35地点10



60H出土遺物 (26、27)



60H出土遺物 (28、29)



60H出土遺物 (30、31)



60H出土遺物 (32、33)



60H出土遺物 (34)



60H出土遺物 (35、36)



60H出土遺物 (37)

写真図版11 東台遺跡第35地点11



62H出土遺物 (38、39)



62H出土遺物 (40、41)



62H出土遺物 (42、43)



62H出土遺物 (44、45)



62H出土遺物 (46、47)



62H出土遺物 (48)



62H出土遺物 (49、50)

写真図版12 東台遺跡第35地点12



63H出土遺物 (51、52)



63H出土遺物 (54)



63H出土遺物 (55)



63H出土遺物 (53)、75H出土遺物 (58)



75H出土刻書土器 (58)



75H出土遺物 (56、57)



鉄製品 (59、60)



鉄製品 (61、62)

写真図版13 宿遺跡第7地点 1



調査前風景



第1号住居跡遺構プラン



調査風景



第1号住居跡 (1H)



第1号住居跡カマド



第1号住居跡カマドセクション



第1号住居跡遺物出土状況 1



第1号住居跡遺物出土状況 2

写真図版14 宿遺跡第7地点2



第1号住居跡遺物出土状況3



第1945号土坑



第1945号土坑セクション



出土遺物（1、2）



出土遺物（3、4）



出土遺物（5、6）



出土遺物（7）

報告書抄録

ふりがな	しないいせきはつくつちょうさ							
書名	市内遺跡発掘調査				巻次	XI		
副書名								
シリーズ名	富士見市文化財報告				巻次	第70集		
編著者名	堀 善之							
編集機関	富士見市教育委員会							
所在地	埼玉県富士見市大字鶴馬1873-1 〒354-0021 TEL 049-251-2711 fax 049-255-9635							
発行年月日	2018年3月31日							
所収遺跡	所在地		コード		北緯/東経 (日本測地系による)	調査期間 (上段：試掘、 下段：本調査)	面積	調査原因
			市町村	遺跡番号				
東台遺跡 第35地点	大字水子字東台 4544～4547		112356	24-46	35° 50' 21″ 139° 33' 41″	2012年 5月29日～6月4日 2013年 4月4日～4月30日	3,437㎡	宅地造成
宿遺跡 (多門氏館跡) 第7地点	諏訪2丁目2051-1、2050-1、 2050-3、2050-4の一部		112356	24-28	35° 51' 8″ 139° 33' 8″	2015年 12月14日 12月15日～12月16日	190.95㎡	個人専用住宅 建設
所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物	特記事項		
東台遺跡 第35地点	集落跡	縄文時代 平安時代	土坑 住居跡 9軒 溝跡		平安時代の土器			
宿遺跡 第7地点	集落跡	平安時代	住居跡 1軒		平安時代の土器			
要約								
【東台遺跡第35地点】 遺跡の中央部に位置し、周辺の既調査地点からは9世紀後半～10世紀初頭にかけての住居跡を中心とした集落が広がっていることが確認されており、本地点からも当該期と考えられる住居跡が9軒検出された。								
【宿遺跡第7地点】 本遺跡は近世の館跡が存在することが確認されているが、本地点で平安時代の住居跡（8世紀後半）の住居跡1軒が初めて確認された。								

富士見市文化財報告 第70集

市内遺跡発掘調査Ⅺ

発行 平成30年3月31日

編集発行 富士見市教育委員会
〒354-0021 埼玉県富士見市大字鶴馬1873-1

印刷 梅田印刷株式会社
〒354-0025 埼玉県富士見市関沢1-2-2

